婦人衛生雜誌

明治四十四年四月二十日發行

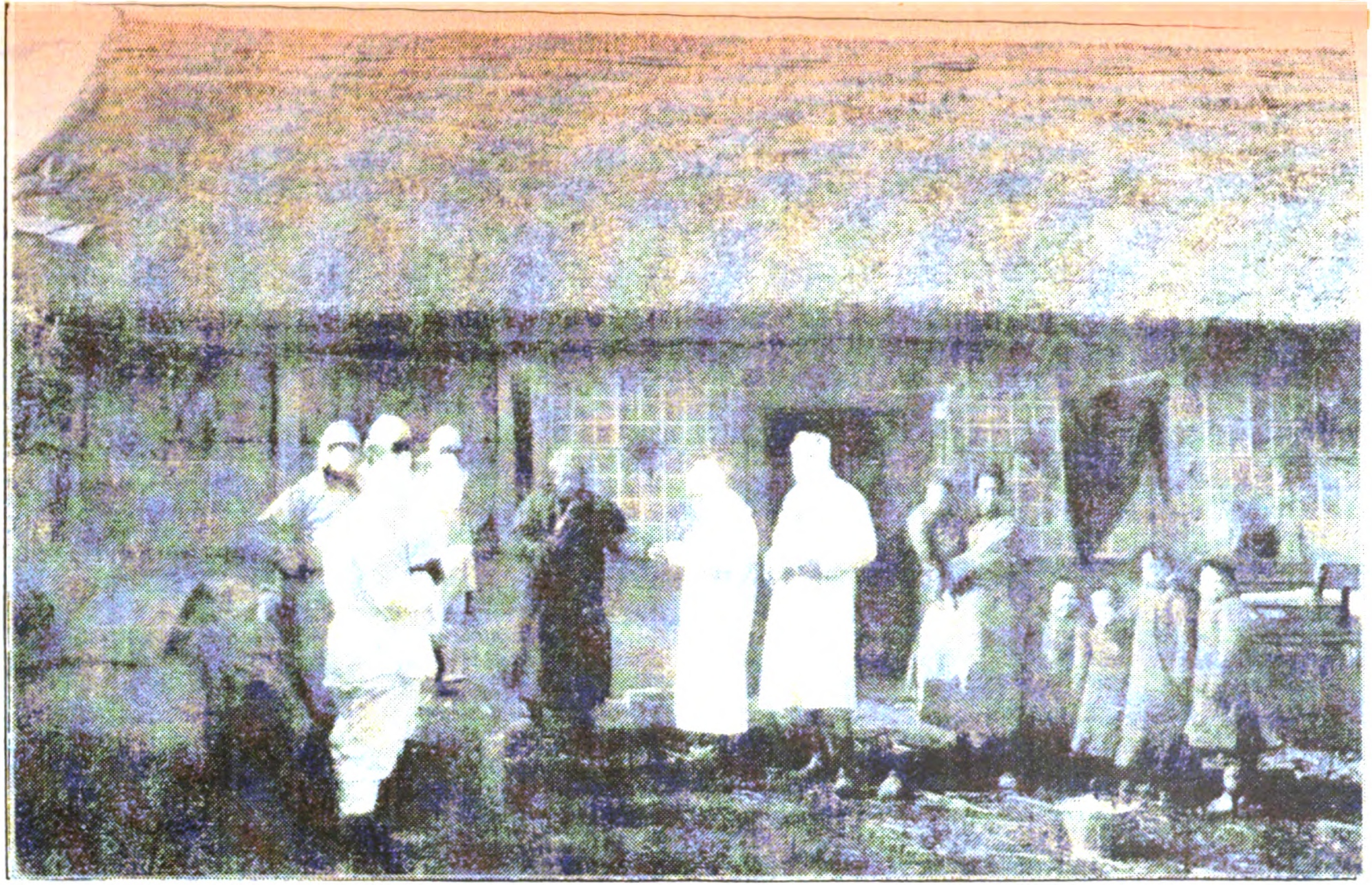
第二百五十七號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第二百五拾七號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



遼陽附近楊林子ニ於テ武富檢疫醫ガ「ペスト」患者宋長增ヲ診察ノ實況ニシテ圖中幼兒ヲ懐ク婦人ハ死亡セル宋申和ノ妻ニシテ他ノ小兒ハ其遺族ナルモ是等ノ遺族ハ引續キ「ペスト」ニ感染シ一家全滅シタルモノナリ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會五月例會通知

來る五月六日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

狂犬病に就て　醫學博士　栗本東明君

洗濯色染の研究　高等工業學校助教授　吉川良治君

明治四十四年四月

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆とも希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相導て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告け其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

◐第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときに速に事務所に報知せらるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戾さず

●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

●第十三條　臨時指名委員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして注意聽講せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）

●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す

●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其費用を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に記錄し尙本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべし但し地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證は贊として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）

●第卅三條　會費東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあべし

●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目廿二番地

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演

血の話（承前）

醫學博士　二木謙三

第一回の講演は本誌第二四七、四九、五二號に分載したるが今又其第二回の講演筆記を茲に掲ぐるものなり。

前會は甚だ失禮を致しました、今回重ねてお話を致すやうにと云ふことで御座いますから、暫時御清聽を穢す次第であります。

丁度私の先生であります獨逸に於て衛生及細菌學の大家でありますグルーバー先生は此の間大變に悲壯な演說をなされた、其言葉には吾々は最早疲れて仕舞つた。朝から晩まで此醫學の爲めに研究を致して息みなしに働いて居るのにも拘はらず病の數は段々に殖えて行く、癒すことの出來ない所の病氣は多くなつて來る、或は細菌學、或は免疫論、種々研究を重ねて、肺結核は尚今日に至つても治すことは出來ぬ、結核の數は漸々世界に蔓延して來る、外界の狀況は已に斯の如くなるにも拘はらず、又人間の健康狀態は何うであるかと申しますると、榮養は外見極めて宜い樣に見へて居つても、內部の抵抗力は漸次に、文明と共に弱はつて行く、此の物を嚙む齒、生命の本となるところの此の齒に、齲齒は段々多くなつて行く、明かでなければならぬところの眼は段々近くなり、或は遠くなり行く、顧みて婦人の生殖の狀態を見ますのに、難產は年と共に漸次增加して行く、胎兒の羊水は漸次增加して行つて、胎兒の位置は子宮內に於て容易に變動して異常となる、夫れに反して婦人の乳房は段々萎縮して行つて、最早分泌の作用を營むことが出來なくなるものが多い、遂か

らざる未來に於ては、此の乳房と云ふものは恐らくは前世界の遺物として婦人の胸部に殘るものではないかと云ふ觀念を有ち、子供は遂に牛乳で育てなければならぬ、子供の死亡數は漸次に殖へて來る、佛蘭西の人口の漸次に減少しつゝあることは皆さんが御存知であらう、殊に獨逸も近年に至つて比較的人口の增加數が低くなつて來た、卽ち獨逸全國の人口の增殖の數が、是迄よりは增殖はするが其の割合が減じつゝあると云ふ話であります、其の原因を探つて見るに、卽ち文明である、文明は實に生物を破壞するところのものである、吾々は文明を歡迎する、併しながら此の破壞は斷じて取ることが出來ない、吾々は諸君と共に極力文明の破壞に逆はねばならぬと云ふことを演説せられて居ります、どうでございませう、我々は諸君と共に同感の聲を揚げなくてはならぬではありませんか。

此の文明なるものは、例へば上野の樹は日に〳〵に枯れて行く、彼の煙の爲めである、芝の公園の木は枯れて行く烏の爲めであると云ふことであります、元と生茂つたところの森は今は枯れて、鳥の疲れを息むべき巢も見出すことが出來ない有樣、彼の綠の叢は燒かれ、或は枯れて哀れなる蟲の咽を潤す水も見出すことが出來ないと云ふことは、是れ此の文明の有樣では御座いませぬか、して見ると云ふと唯人間ばかりではなく、萬物總て此の文明の破壞に遭遇しつゝあるのである、翻つて我々は自然の懷に入つて慈愛深きところの秩序正しきところの自然の懷に是れから我々の生活の道を求めなければならぬのである、此の立論の下に今日私は少しく血の御話以外に、倘ほ人間は如何に生活しなければならぬかと云ふことを少し敷衍して御話を致さうと思ふのであります。

第一に吾々が、先刻も御目に掛けましたところの血液の循環であります、此の血液と云ふものは御存知の如く液體であつて、液體の中に血の球々が泳いで居る、其の球の數は、先日お話しました通り、人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

間一人の身體の中に二十兆の數がある、此の二十兆の數は實に大變な數であつて、數へても算へきれませぬ、神武天皇から今日に至るまで長い二千五百年の間、息もつかずに一ィ二ッ三ィと數へ上げても算へ切れぬ、三千世界の人口の數を合せても一人の體の血球の數に及ばぬ位である、其の澤山な數が朝から晩まで身體を廻つて、全身を養つて居る、今其處に見へて居る働いて居るところの血液のある所は動脈と申しまして、血の球の進んで組織の中に入る道であります、夫れから太くなつて少し運動の惡くなつて居つたところの、顯微鏡の下に見えて居るのは、靜脈であつて、一度働きをなしたる血が再び心臟に歸つて來るところの道すがらであります、行く時には多數の榮養分やら必要なものを運んで參りまして、歸る時にはそれを組織の中に、良い物は置いて、惡るい物は擔つて歸つて來る、是れは人間が怠けて居る間にも、寢て居る間にも、血液を心臟が少しも休まないで働いて居る、二十四時齷齪働いて居ると云ふ有様で、世の中が亂れやうが、人が不道德をしやうが少しも關係しないで溫順く働いて居るのであります。

是れを例へて見ると、能く心臟と血液とは、此の人類に譬喩へますと御婦人方に相當すると私は思ひます、常に胸の深きに潛んで居つて、決して外へは顏を出さない、さうして此の人間を活すべく、又社會を活動せしむべく働いて居なさる、目鼻は外に出て居るが、心臟は內に匿れて居る、目鼻は心臟の力に依つて活きて居るのであつて、心臟が弱つたら目鼻は幾ら威張つても駄目であります、恰度茲に思ひ起すのは、男子と婦人方の比較であります、男子は現世を經營する、此の世を經營するのであります、御婦人方は此の世には潛んで居るが、未來を經營するところの必要なる、社會に缺く可からざるところの分子であると云ふことを考へなさらなければなりませぬ、若し御婦人方に於て、此の現世と未來とを掛持すると云ふ方が御座いましたならば、是れは異

常の方である、拔群の方である、一般に申しますと手は足の代りにはならぬ、足は手の代りにはならぬのであつて、現世を經營する者と、未來を經營する者との分が明になつて居らなければ不可のであります、是れが紊ると最早文明病の弊に陷るので御座います。

それから再び此の身體の中に這入つて、只今血の御話を致しましたが、其序に私は假に體內旅行をして御目に懸けませう。

譬喩ば私が食物となつて今體內に入つて行くと致しますと、先づ第一口の中で能く咀嚼せられて、胃の中に入る、胃の腑は入つて來た物を能く消化するやうに働く、此の消化と申しても決して自分の腹を肥すのではない、どうか此の身體を養はせやうと思つて、よく消化する、其消化せられたものは、血液に由つて運ばれて行くので、血液も自分の爲に運ぶのではなく、どうか全身の爲に榮養になるやうにと運んで行く、運んで行つた物が肝臟の中で同化される、是れまで他の食物とか、牛の肉とか云ふものであつたのが、人間の物質に變へられるのである、此の變へられるのも肝臟自身の爲ではない、全身の爲めである、夫れから同化されて、肝臟で消化したものが再び血液に混じて肺臟へ參る、それで初めて食物の樣な物質が、生きて働く必要なものとなる、この肺臟に入つたものが左の心臟に出て歸つて來る、心臟に歸つてから全身を廻つて之を榮養するのである、其所で全身內の凡ての臟器は其榮養を過不及なく受け得て始めて全身の調和を保ち無病長命も出來るのである、然るに後に話す如く血液の循環の惡い人は其の結果種々の病を起すことになる、其の他の人體內の臟器や組織と云ふものは皆其々重要なる役目を持ちて居るもので例へば骨と云ふものは我々の體重を保つて居るもので、骨自ら壓迫せられて、固くなつて居る、さうして此の體重を保つて行くやうに務めて居る、一番體內の底にあつて土臺石になつて居る、是れも決して自分の道樂の爲めではない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分は苦しくつても人様の爲めと思はなければならない任務を有つて居る、さうして此の骨の周圍に附いて居る筋肉は身體を動かすべく働いて居る、是れも好きで遊んで歩くのではない、矢張り體軀全體の爲めに働いて居るものである、神經と云ふものは、右の手の痛い處も頭に知らせる、左の足の痒い處も頭に知らせる、電信の役をなして居る、又知らせるところの神經もあれば、之れと反對に中樞より手足の方に行くところの神經もある卽ち知らせて來たところの報知を正しく處分すべく命令をするところの大腦から出て來て脊髓を通つて手足に行く神經もある、痛い時には手足を引込ますやうに、歩かなければならぬ時には歩かせるやうに働かせる神經もある斯う云ふものが悉く一致共同して此身體が出來て居るのである、若し身體の一致共同が缺けたならば忽ち病になつて來る、其の病の發する一番初めは何かと言へば、多くは血液の循行が惡くなると病になる、血液の循行が惡くなると、今御話した通り榮養物を運んで行くことも、排泄することも出來ない、此の血液の循行と云ふものは最も能く保つて行かなければならぬ、是れは能く心掛けないと、時としては害せらるゝので、其の血液の循行が害せらるゝ源を探ぐると、多くの場合は腹部が御留守になるからである、病に冒されると血の廻りが惡くなることは餘程説明しなければ諸君には御解りにならぬと思ひますから、私は色々模型を拵へて持つて參りましたから、先づ圖解から始めてお話を致さなければならぬのであります（圖を示す）

胸とお腹との境に橫膈膜と云ふものがある、其の橫膈膜は何時でも傘が開いた樣になつて居つて、其の周緣にて胸廓の下部に附著し上に高くなつて居ります、さうして筋肉は傘の骨になりて並んで居るので此の筋肉が弛むと、橫膈膜なるものは上に上る、此の筋肉が縮まると橫膈膜は下に下つて來る、で此の橫膈膜と云ふものは、私が是れから御話することころの一番主なるものになることでありますから、宜

く御注意を願はなければなりませぬ。

それで此の横隔膜が張つて參ると云ふと、胸の容積が廣くなつて、腹の容積が狹くなる、横隔膜が弛むと胸の容積は狹くなつて、腹の容積が大きくなるのである、此の度合で之が必要なのであります、昔から斯う云ふ事を言つて居る、お武士と云ふ者は何時でも下腹に注意しなければならぬ、臍の下三寸の處に注意して居らなければならぬと云ふことを言つて居る、馬に乘るにも、弓を射るにも此の下腹に注意しなければならぬ、謠を歌ふにも咽から聲を出さすに下腹から聲を出さなければ不可と云ふて居る、坐はる姿勢でも何でも下腹に力を入れなければ不可と言つて居る、それは餘り皆さんには飛離れたことでありますが、近かい例を言ふと下笠原流の禮式であるとか、或は茶の湯であるとか、活花であるとか云ふことを爲すにも、總て下腹に力を入れてやらなければならぬ、例へば花を活けるにも、折る時に腕で折れば、半ば折らうと云ふ時に皆折れたりするのでありますから、下腹の力で折らなければならぬのであるさうで、さう致さぬと兎角活花の名人にもなれぬ、それから禮式をやります作法にも、下腹に力が入つて居ないと腰がふらついて不可と云ふのは此處である、下腹に力の入るのは何うであるかと言ふと横隔膜が下つて參つて、腹部の內臟を押し下げられるからして、下腹の所は少し出てまゐる、是に充分の力が入つて居らぬと云ふと、兎角身體の重力の平均が取れなくなる、もう一つ附加へて置くのは、身體の重力と云ふものは何う云ふ風になつて居るかと言ふと。

是れは脊骨であります、是れは胸であります、是だけの身體の重力が皆前に懸つて居る、此處に以て行つて此處に大きな肝臟が下がる、此處に胃の腑やら腹やら皆吊る、其處で若し下腹に力がなかつたならば、どうでありませうか、此のものが總て脊骨の前の方に重みが懸るから曲つて身體は前に屈む樣になつて仕舞はなければならぬ、御老人になると遂に

脊の曲るのは此の理なので、西洋人は反對で、老人になると反る、夫れは何うであるかと申しますと、常に安樂椅子などによつて居る爲めに脊骨を斯うやつて(姿勢を示す)此の重心が脊骨の後に落るやうになる、何れの場合にせよ是は皆下腹に力がなくなると、脊骨が重みに堪えぬやうになつて、後に屈み、前に屈むやうになる、若し下腹に充分に力が入つて腹に物が滿ちて居れば其の重心は皆腹の力のある所に落ちて居るから脊骨は樂をする事が出來る、是れは體重の姿に關係することでありますから能く此の姿勢と云ふものは眞直に保たなければならぬのであります、又次に御話致さうと思ひますのは、日本の御婦人の御座りなさる姿勢は甚だ矯正して頂かなければならぬと思ふ點があるが、それは是から段々申し上げます、夫れから此處にまう一つ考へなければならぬのは。

此處に心臟と云ふものがある、心臟は横隔膜の上になつて居る、胸の中にある、此の心臟から血管が出て、循環を營むのであります、さうして是れが再び歸つて心臟に入る、夫れで心臟は筋肉から出來て居ります、筋肉と云ふものは牛肉のやうなものと同じあア云ふものから出來て居て、其の中は空になつて内に血液を入れて居る筋肉であるから押出す力は充分であるけれども吸入れる力は極く弱い、譬喩は心臟を斯う云ふ一つの袋に考へましたならば(模型を示す)

是れが始終縮んでは伸び、伸びては收縮し、伸びたり收縮したりして居る、心臟より出る所の血管の出口と入口に瓣があつて恰度吹子のやうなものになつて居る爲めに、心臟の伸び縮みの度每に血液は一定の方向に流るゝのである、併しながら心臟は今言ひました通り筋肉から出來て居るのであるから、押出す力が中々强いのでありますけれども、之を自分で開いて吸入れやうと云ふ力が甚だ弱いのである、心臟は唯押出す力だけがあると云ふてもよい程である此の心臟が押し出す時には血液は組織の中に入る組

織には血液が充分になる、如何にして血液が再び組織から心臓に歸つて來るかと申すと即ちお腹の横隔膜の力が必要になつて來る、血液の心臓より出る時には動脈管を通り、歸る時には靜脈管を通るので、この靜脈にも一の瓣があつて、夫れが上に開いて、下に閉ぢて居る、其所で内臓に血液が充ちたときに横隔膜が下ると腹部の壓力が高まつて來る、昂まつて來ると血管が壓迫を受ける壓迫を受けると血液は何處かへ逃げなければならぬ、偖て何處に逃げやうかと言ふと、下には今の靜脈瓣があつて逃げることが出來ないから止むを得ず上に追ひやらるゝので、遂に再び心臓に歸つて來ることになるのである、それで心臓ばかり働いて居ると血が鬱結して什舞つて歸つて來ない、心臓と横隔膜と共に働らかなければ、血行が充分に行かぬ、ところが皆さん日本ばかりでなく世界の人總て文明の民は、横隔膜の働きが甚だ弱つて居る、是れが土人に於いては極めて能く發達して居る、文明と共に横隔膜は漸次弱つて行く、横隔膜が弱ると血液循環がうまく行かぬからして、色々な病氣を起して來る、皆様が横隔膜が弱わつて居るか居ないかと云ふことは獨で驗すことが出來る、それは息を大きく吸ふと、吸ふた時にはお腹が出れば宜いが、息を大きく吸つた時にお腹が凹む人は少し怪しいから、斯う云ふ人は能く考へなければならぬ、（姿勢を示す）斯かる人々はお若い時には宜しいが、お年召さるゝと色々の病氣が出て參りますから能く注意しなければなりませぬ。

何う云ふ譯で息を吸ふた時にはお腹が出なければならぬかと云ふと、息を吸ふと肺部に空氣が澤山入る時である其の時は胸が前に廣がるばかりでなく横隔膜は下に下つて從つて胸が下にも擴がつて來る。そこで肺の横にも下にも空氣が入つて來るのである其の時には横隔膜が下りますから下腹の臓器も下に押出されて矢張り下腹の方に押し出されなければならぬ理窟である、是が通常の呼吸である、然るに横隔膜の弱い方では息を吸うた時には胸廓が外に開い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て横隔膜が却て吸上げられて來るので、其の爲めに腹部が凹むのである、斯う云ふ方は横隔膜の弱つて居る方でありますから色々な病氣を起す、第一には血行の病氣、血液の循環がよくない爲に肩の凝りだとか、腰の痛みとか、手足が慄へるとか、手足の冷へるとか、種々の病氣が起つて來る、其の外に腹部に鬱血して居るから便通が宜くないとか、或は時々僅かな物を喰べても直ぐ下痢が起るとか、云ふやうなことが起つて來る、夫等に對して横隔膜と云ふものは前の通り循行器と消化器に必要なる働きを有つて居ることが解る。

もう一つは消化器の方に就いて言ふと横隔膜に力があれば、胃腸内にあるものは皆壓迫せらるゝ理窟であるから、或る物は吸收されて行き、又或る物は排泄せらるゝ理窟になる、恰度袋に物を入れて締めた様なものであるから其の中の物が外に浸み出すので、浸み出したものは直ぐ外に持つて行かれる、胃腸の中に長く物が溜まり居ると其れが醗酵して瓦斯が出來て、胃腸が膨滿する、膨滿したお腹を叩いて見るとポコン／＼と太鼓のやうな音がする、夫れは卽ち瓦斯が溜つて居る證據で此等は皆横隔膜の力の強い人にはないことである。

次に横隔膜が呼吸器に及ぼす關係を述ぶれば呼吸と云ふものは胸廓が外に開くと共に横隔膜が下つて、下つた時開いた時に空氣が入つて來るのであるが、若し胸廓が開いた時に横隔膜が弱い爲めに上に吸引さるゝ様なことがあつては遂に空氣の入方が段々少くなつて呼吸には不利益であることは申す迄もなく、肺の呼吸を營むに最も必要な肺の底部の方へ空氣の入り方が少なくなつて遂に肺尖やなにかで、呼吸をする事になる、それで斯う云ふ方は肺尖加答兒をやる事になる、譬喩へば斯うであります、横隔膜の弱つて居る人は肺尖だけに呼吸をする（姿勢を示す）併しながら斯う殊更にやつて御目に懸けますと異様に思ひますけれども、何うで御座います、疲れましてグッタリして坐つて居る時には腰を屈め胸を

狹め肩息になるのであります、肩息と云ふことは是れは死に近づいた狀態である、何故かと申しますと例へば患者が將に死に垂々とする時には所謂肩で息を切るやうになる、是れは橫隔膜の力がスッカリ痲痺して仕舞つて居るから、肩の力で僅かに肺に空氣を入れやうと云ふ狀況になるので、肩息の兆候の日常ある人であつたならば、其の人は段々身體が弱つて行く人である、種々肺尖加答兒とか、或は喉頭、氣管支に病氣が起る、それであるから呼吸器を强くするにはなるだけ橫隔膜を多く使はなければならぬと云ふことになつて來ます。

橫隔膜を使かはぬと、もう一つの働きは神經に害を及ぼす、神經に種々の障碍が起きて來る、それはどうかと言ふと神經は腦から來り或は脊髓を通つて、全身に廣がつて居る、而して大切な神經は腹部にも澤山參つて居る、夫れで神經は刺戟がなければ働かぬところのものであつて橫隔膜を動かして呼吸をする人は之れが呼吸每に橫隔膜が上り下りする爲に、常に腹部の神經に刺戟を及ぼして、其の刺戟が全身に傳つて組織に緊張を與へ機能を活潑にし爲めに腦髓には愉快と云ふ感じを與へるので、之が壯健の基となるのである、それから心臟とか肺臟の働きも其神經から反射的に整調にせらるゝのである、所が橫隔膜の弛んで居る人は其の働きが出來ないことになる、夫れであるから全身の神經系統が緩んで且つ弱つて來る、其の結果神經衰弱を起すことになつて來る、殊に御婦人方にあつてはヒステリーと云ふやうな症狀が起つて來る、斯う云ふ方は橫隔膜の運動をして橫隔膜が呼吸と共に能く動くやうになさるゝと大抵は病は癒つて參ると云ふことは古人の經驗によつて明かなのである。併し病も手後れになつて仕舞つた場合には如何なる方法も無效であることは分りきつたことでありますから病は起らぬ樣にすることが大事で、且つ又起つたならば早く醫師に問ふて治療を受けなければならぬ、如何に惡症でも早ければ直るのである、今一寸時間も長くなりますから、此

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處に雛形を作つて參りましたのを御目に懸けましたならば、今の説明と相俟つて能く御解りにならうと思ひます。

夫れであるから呼吸を爲るのには、常にお腹が動く樣に、お腹の固くなる樣に息をなさるのが必要である、息をする時には人によつて帶の間に手を入れて呼吸する毎に手が縮るやうにすることも必要である皆さんがやつて御覧なさい、出來る方は少いだらう、御婦人方の息は小さい、是れは何處から斯う云ふ風になつて來るかと云ふと、其の原因はいろ〳〵で、第一身體の姿勢の惡いことである、即ち帶を締めて、さうして腰を折つて座ることです、是は極めていかぬ、斯う坐るとお腹で呼吸する事が出來ない、日本の風は腰を曲げて座はると云ふことは温順らしいと云ふことになつて居るがそれは生理的に惡いので、之に反して脊骨を眞直にして腹を出して坐ると生理的に宜しいのでありますが斯うなると如何にも威張つて居るやうに見えて具合が惡い樣です、併し命には代へられぬ、又た習慣は改まつて參りますと其程に思はぬやうになるのである、所が御婦人方はお腹に力のない方が多いから、帶を澤山卷きまして帶でお腹を抑へて之を土臺として體重を持つて行かうと云い惡い習慣になつて居るが、どうぞ帶の力を藉りないで横隔膜で抑へてお腹を抑へて行かなければならぬ、さうしませぬと今言つた通り恐るべき病氣が澤山起つて來る、心臟の病氣とか、ヒステリ神經衰弱とか或は胃腸の病氣とか肺病であるとか、腎臟病であるとか數へ切れぬ程の色々な病氣が起つて來る、注意して置かぬと先きにお話致したグルーパー先生が慨嘆するところの人間が段々弱はり行くと云ふ側に立つて行かなければならぬ、それから男であると例へば趺座をかいて矢張り腰を折つて座はる、机の上に無樣に臂を付いて本などを讀むなどはいけませぬ、始終チヤンと姿勢正しくすると呼吸は充分に良くなる、夫れからしてもう一つ横隔膜の弱はり行く源因は文明と生活難、處世難、試驗難等によつ

て來る所の焦心苦慮の結果によつて來るのである、譬へば學生等でありますが、朝から晩まで試驗が苦勞になつて仕方がない、今日の宿題は何うだつたからどうしやうかと思ふと睡るにも眠られないやうに心配して居る、御婦人方の生徒でも學校の課業が忙しくなつて——試驗中などは——試驗をなさるに就いて却々骨が折れる、夫れから世の中に立つて見ると色々な生活難であるとか、夫れからして親子兄弟伯父伯母親族の關係等が難かしいと云ふやうなことから始終憂慮を懷く種々雜多の恐れを懷いて其の結果橫隔膜が縮み詰になつて居る、是れは何うかして精神的にまう少し橫隔膜に緊まりを付ける方法を講じて行かなければなりませぬ、其所で世の中の萬事は出來るだけを行へば其で義務が濟むと諦らめることが必要である、卽ち古人の人力を盡して天命を待つ、と云ふことに據つて度胸を据えて居ると宜い、是より外仕樣がない、譬喩へば試驗が前に見へて居りましても、御弟兄が病氣であるから、看病をしなければならぬのに私は試驗だからと言つて知らぬ顏をして看病もしないで居る譯にはいかぬ、さりとて試驗の復習もしなければならず、看病もしなければならぬと云ふて苦しむ、それはいかぬ、試驗が重いか御兄弟の看病が重いかと云ふ事を目方に懸けて、重い方に付いて輕い方は捨てる、四分と六分であつたならば、六分看病をして四分は試驗に盡すと云ふやうにする、止めると云ふ譯ではない、斯うすれば、朝から晩まで苦しむことも何にもないのであります、能く考へると、何事でもよく分るのであるが、理のない事を幾度でも繰り返して考へて心配し、苦勞して居る、之がいかぬのである、斯う云ふ方面は十分に御注意あらん事を願ひます、今一つ橫隔膜の弱る原因は文明の人の運動不足の爲め筋肉の萎弱を起す爲めである、之れは注意して一週に土曜日日曜日一日若しくは半日位必ず極めて郊外に運動する樣に御子供衆に御注意を願ひます、子供のみに限らぬ大人にも最も必要である、夫れで橫隔膜で呼吸をな

さるに就いて申しますと先づチャンと正座して、日本の禮式の容に型取つて、お臀を成るべく後の方にやつて體をなるべく眞直にし、又なるべく腹を出す樣にして坐るのである、斯く脊骨は眞直にし、脊骨の上に頭を載つける、肩は十文字に掛けて其の兩端へ手をぶら下げて置くだけで、夫れから臍から下は腰と足との力で締めて立上る氣合の勢になる、さうして置いて吐くことからするのであります、(吹息の姿勢を示す)フート空氣を吐く時にはお腹を少し凹ませるやうにして吐きます、さうして置いて少し呼吸を止めて氣を落付けて後に靜に鼻から吸入れる、吸入ると共に少し下腹が出るやうにする、下腹の出ると共に少しつゝ下腹の固くなる樣にする、固くなつたら直ぐに吐かずに少し呼吸を止めて氣を靜め、少し苦しくなる前に靜かに吐き出す樣にする、吐く時も下腹の力の緩まぬ樣に注意することが必要である、是れを幾度も繰返すので、是れが卽ち腹式の眞呼吸であります、さうすれば段々と横隔膜が自家按摩を受くることに依つて段々強くなる、加ふるに腹部の内臓は何日横隔膜で二十四時間按摩せられて居るやうで、胃腸の働きも強くなる、何にも按摩を賴んで腰を揉ませるには及ばぬ、横隔膜が自分で腰から腹から揉んで呉るゝやうになる、さうすると身體は段々緊まりが付いて健全になつて、何んな艱難辛苦にも、何んな勞力にも耐える體になつて行くから如何に神經衰弱の人でも、どんなヒステリーの人でも、大抵は此の法で癒り行くから、お志ある方は何うぞ一人でも宜しい國家の爲でありますから、充分に經驗あらむことを願ひます、初めての人には一日中朝晩又は朝晝晩と時間を極めて二回又は三回練習をなさるが宜しい、一回の時間は十分内外でも宜しい、又は五分でも宜しいから毎日怠りなく此の方を練習して行かるゝが宜しい、練習の時には妄念妄想を止めて一心不亂に此呼吸法を行ひ、其の早さを一分間に五六回呼吸をする樣に注意する、初めての人は之を行ふと眩暈を起す樣のことがあるかも知れ

ぬ、其は恐るべきことでないから斯る人は靜かに練習せらるべし、漸次に左樣の事はなくなります、又練習を終つて立つ時にはなるべく今練習した狀態を忘れぬ樣にし之を日常仕事の時にも歩く時にも書物を讀むときにも此の呼吸法を應用して後には一日中片時も忘れぬ樣になることに御注意を願ひます、又初めて、人は此の呼吸を行ふた後に腹皮や又は腰の邊の痛む樣のこともあります、之れは遠路を歩いた後に脚の痛いも同樣でありますから兩三日の中には必ず直ります、御心配には及ばぬ。

最後に御注意申すことは此の方法は寧ろ病氣を直す法に非ずして病氣にかゝらぬ方であります、如何なる善き方にても重き病には利かぬことあるもの故病氣は初めの内に注意を怠らぬ樣、醫師に診せらるゝ樣に願ひます、一體病氣によつては此の方法の適せぬ方がある、卽ち急性の病氣、熱のある人、痛みのある人、血の出る人例へば咯血、下血、鼻出血、其他何所からでも血の出る人には此の方は禁じなければならぬ、其人は必ず安靜にして醫師の注意を請はなければなりませぬ、卽ち病氣のある人は必ず醫師の注意の下に許を得て此の方を行ふ樣に御注意を呉々も願ふ次第であります。

其の他に於ては此の方は男子にもよく女子にもよく子供にも宜しい、何となく弱いと云ふ人にも宜しく老人にも老いて益々壯となることが出來る、只大切なる方法程ぞんざいにせずに、充分に注意をして用ひて戴きたいのであります。

また日常の朝から晩までの事に於て、運動とか食物とか入浴とか、水浴とか、空氣光線とか色々お話することがありますが、少し長くなりますから中休みを致しまして或は次會に讓るかも知れませぬが、其處に顯微鏡が懸つて居りますから、能く御覽になりますやうに願ひます。

人の卵

通常卵と申せば雞の卵のことですが、凡て動物の卵は其形も構造も略々相似たもので、駝鳥の卵の如く大きいのもあり、蟲の卵の如く小さいのもあり、鳥の卵の樣に堅い殼を被ぶつて居るのもあり、魚の卵の樣に軟いのもあり實に千差萬別でありますけれども、これが適當の條件の下に障碍なく發育すれば、何れもその親同樣の姿を現はすと云ふことは同じであります。

鷹が鳶になり、燕が蛤になり、蕷が鰻になるといふて不思議がりますが、左樣な不自然な虚僞の博物學よりも、卵が鳥になり、魚になる方が遙に面白い、而かも實際の現象ではありますまいか、人は兎角、天然自然の微妙にして幽玄なる現象には慣れて、別に不思議とも奇妙とも思はず、反て人手に造つた玩弄物のやうなものや僞言に感嘆して居るのであります。今日の學問、就中科學と申しますものは、日常吾々の目に觸れ耳に聽き、何でも無い事のやうに考へて居る現象に對して、感嘆し、不思議を起してその現象を窮め、その眞理を求むるのであります。

人間には男があり、女がある、それで父母の間に子が生れる、當然な話で、何の奇かあらんと云へば、それまでの話でありますが、扨てこれを學問上から研究致しますと、實に洪大無邊、深甚微妙の事柄で、古今東西の學者が研究に研究を重ねても、猶ほ未だに判明しない大問題で御座います、然し數百年、否數十年の昔に較べても、今日の學問は驚く計り進歩致しまして、人の成立、その發育の次第も餘程明かになつて參りました、尤も學術上の研究を總て世の中に發表することは困難で、特に人の發育の元始を說明することは、普通の御婦人に對しては說明し

にくい所もありますから、十分に御會得なり兼ぬる點もあるかも知れませんが、此處には人も亦卵から發育するものであると云ふことを御話して見ようと思ふのであります。

婦人の身體は、男子の身體と異なつて居る處が大分ありますが、その中でも子宮と云ふ器臓は、婦人の婦人たる所以の器官で、名の如く人の子が浦島太郎の幾十千年を十個月に縮めて、此世に出るまでの宮殿であります。六ケしい解剖學の講釋は措きまして、大體の所を譬へて申しますと、先づ子宮を大きくして、人の身體になぞらへますと、首から上は除いて仕舞つて、その首の附根の所から兩肩にかけて、これが子宮の底即ち上の方であります、それから兩腕を左右に伸して、手をお化——と云ふたやうに垂れます。この腕即ち肩から手首までが喇叭管或は輸卵管と云ひ、手の指を垂れた處即ち輸卵管の端が所謂剪彩と云ふ處で、手の指を垂れたるが如く婆娑〱になつて居ります、それから腕の下、胸の側には袖が附いて居る、これが即ち卵巣と云ふものゝ在る所であります。これで先づ子宮、輸卵管、及び卵巣等の解剖が了りましたから、愈〻これから卵のお話に移ります。

そも〱人の卵の卵とも云ふべきその卵は、何處如何なる處に生ずるかと尋ねて見ますと、これは前に申した卵巣と云ふ袖の中に出來る。而かも未だお母樣のお腹の中で卵からやうやう人の形を具へたばかりの娘の子の卵巣の中にも此の卵が見出されますが、その卵巣内の卵の數は幾粒ぞと問いて見ますと、大凡三萬六千個と申すことで御座います、尤も只今申したやうな時代では、未だ發育しない所謂原始の卵で、小さな圓い細胞に過ぎません、而して似たやうな細胞の集團に取圍まれて居ります。

扨この卵が漸次大きくなつて參りますと、これを取圍んで居る細胞の一團は非常な堆積に殖えまして、その眞中の所には、水の樣なものを充たした空間が出來ます、さうしますと、その中には同じ細胞から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

成る所の小山が突出て、その頂の處に、上皮細胞を被むつた卵が坐つて居ります、こゝまで發育しましたもの、これをグラーフ氏胞と申すのであります。人の卵は斯樣に成熟した所で、その大さはどの位かと申しますと大約直徑四分一ミリメーテル、先づ絹針の太さでありませうか、この粟粒の如き卵の周圍は、軟かい透明な薄皮で被はれて居りまして、その中に又球のやうな、胚胞と稱する核が在ります。この卵が段々大きくなり、それを取圍んで居る細胞が殖え、水の樣なものを入れて居る所の空處が擴がつて參りますと同時に、これが又漸次卵巣の表面に近く出て來まして、殆ど櫻實位の大さになりますが、この胞は遂に皮の薄い半球形の嚢となつて、卵巣の面に現はれて參りまして、熟するに從つてます〳〵皮が薄くなり、婦人の腹部の器臓に一定の血液が充ちて來て、所謂月經が始まりますと、この嚢が破れて卵が飛出すと云ふ譯であります。女の子が成長していよ〳〵一人前の婦人になりますと、右の樣な具合で四週間毎に一個、時としては二個乃至三個の卵が、卵巣から飛出すことになります。これは立派な一個の卵には相違ありませんが、然しこれだけでは幾程大事にしても決して人間には成りません。この卵が更に一段の變化を遂げて人間と成りますのには、是非ともその種子が必要で、これは父親の方から卽ち男性の方からもらはねばならんのであります、その種子と申しますのは矢張一個の細胞でありますが、これは植物の種子や、魚の卵の樣なものではなくつて、小さな泥鰌か鰻の樣なものであります。卵子から較べますとずつと小さなもので、卵子は○・二五ミリメーテル位でありますが、その鰻の頭は僅かに千分の四乃至二百五十分の一ミリメーテル位しか御座いません、然しその尾は頗る長いもので、體の十三倍以上もある、それでも長さは千分の五十卽ち二十分の一ミリメーテルに過ぎません。所でこの鰻が一立方ミリメーテルの泥の中にどの位居るかと申しますと、大凡六萬匹、それが卵を發育させる爲

に一回に用うる泥を四立方センチメートルと致しますから、即ち四千立方ミリメートルで、その中の鰻の數はどの位になるかと計算して見ますと大約二千四百萬となります。

卵が人となるには、この鰻が卵の中に這入つて變化を起すのですが、右の二千四百萬匹の中で、幸にこの卵に達して其目的を果すものは、有つても唯だ一匹に限るのであります。

次に話が前の解剖の所にもどりまして、袖に比した卵巢の中から成熟した卵が飛出しますと、輸卵管の端にある所の手がこれを捕へて、腕に當る輸卵管の中へ送ります。前にお話致しました卵子と鰻が會合して一つのものに成りますのは、この腕の內で在ると想像されて居ります。それからこの卵が段々轉げて肩の所より胸の中に參ります、胸と申すのは子宮のことですが、その胸壁に只今の卵が附著致しまして、此處で卵は非常な勢を以て複雜なる變化を營み、十個月の間に立派な人間と成るのであります。

以上は卵の芽から人の卵が出來上るまで、即ち卵巢內に於て卵子が成熟し、受胎し、妊娠するまでの極大體でありますが、鷄の卵が孵化して可愛らしい雛となつて殼を出るまでの所は、人間に於ては倘ほ子宮內に宿つて居るのですから、十個月即ち妊娠四十週間に於ける胎兒發育の概略を附錄としてお話致します。

妊娠第三週に於ては、その大さは四ミリメートル、第四週には七乃至七・五ミリメートルで、嚢と共に卵全體の大きさは大凡鳩の卵位になり、第二個月の終には十三乃至十六ミリメートルありますが、第一個月の終に至るまでは、人の胎兒も獸類の胎兒も區別はつきません。

第二個月の半過になりますと、鷄卵程の大いさで明かに人の形が見えて參りまして、頭は非常に大きく、鰓も無くなり、四肢も人間の特徴を現はして居ります。

第三個月に至りますと、卵の大さは鵞鳥の卵位で、

胎兒の長さは七センチから九センチメートル程になり、體の格好も備はり、手の指、足の趾も明かに分かり、爪なども生じて、鼻と口との境も出來、肋骨が發生しまして胸と腹の區別もつき、頭は身長の三分の一程あります。

第四個月卽ち十二週より十六週の末になりますと、胎兒の頭から足までの丈けが十乃至十七センチメートル、重量が五十五乃至百グラムありまして、頭は體の四の一を占め、鼻、口、耳、眼などの形も出來て、略ぼ顏形が明瞭になつて參りますが、口だけはまだ非常に大きく裂けて居ります。又此月になりますと男と女の區別もつき、お母樣は微かに赤坊の動くのに氣がつく頃であります。

第五箇月の末になりますと、胎兒の身長は十八乃至二十七センチメートル、重量二百二十乃至二百七十グラムとなり　老人の如き顏貌で、眼瞼も離れさうになり、全身に嫩毛を生じ、その心臟の音はお母樣のお腹の上から聽くことが出來るやうになります。

此月に分娩されることがあれば、その赤坊は暫時呼吸も致しますが、迚も保ちません。

第六箇月の末には、皮膚の下の脂肪は增し、頭の髮は長くなり、身體の表面にも脂肪所謂胎脂が附着し、皮膚の色は眞赤であります。眼瞼は上下離れますけれども、眼球はまだ瞳孔膜と云ふもので閉ぢられて居る、然し眉毛や睫毛は能く分ります。此時期に生れることがあれば、その兒は呼吸もし、手足も動かしますけれども、暫時の間で、矢張肋かりません。

第七箇月の末には頭は稍〻硬く、手足も丸味を帶びて、額や肩の邊には盛に嫩毛が生じて居ります、身長は三十五乃至三十八センチメートル、重量平均八百二十乃至千百五十五グラムもありますが、皮下脂肪が十分でないから、皮膚には皺襞が出來ます、此時期に生れた兒は、微かな聲を出して泣きますけれども、大概一二時間で死んで仕舞ひます、尤も一二週間生活したと云ふ例も無いではありません。然し何れにしても育たないのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二十八週より三十二週、卽ち第八箇月に於きましては、顏面の嫩毛は無くなり、頭の髮が多くなり、瞳孔膜も消え、皮下脂肪も增し、皮膚の赤い色もやゝ薄くなり、爪は殆ど指尖まで延びて居ります。此處まで發育した兒であれば、早產でも何うやら育たぬことはありません。然しその育兒法は非常に困難で、なか〳〵容易には出來ません。

第九箇月になりますと、皮膚の色も餘り赤くなく、皮下脂肪も大いに增して皺も少くなり、顏面も大きくなつて、大分可愛らしくなり、身長は四十六乃至四十八センチメートル、重量は二千百八十八乃至二千六百八十四グラムを算します。九箇月で生れた小兒は、育つことは育ちますけれども、矢張取扱が困難で、月滿ちて生れた小兒に比較しますと、その死亡數は遙に多い、自然の發育に代つて人工的に育てると云ふことは、僅かのことでも容易に出來ないものであります。

いよ〳〵妊娠第十箇月に入りますと、胎兒の身長は四十八乃至五十センチメートル、重量は三千四乃至三千六百グラムとなり、肩の處は丸々して、此部分にのみ僅かに嫩毛が殘り、皮膚の色も淡く、全く成熟胎兒となり、茲に巧妙なる分娩機能を待て、人と成つたる卵は、母胎を辭すると共に呱々の聲を放つて四肢を活潑に動かしつゝ、人生歡喜の中に受け入れられて、蝶の如く愛でられ、鵬の如く、大なる希望を以て鞠育せらるゝのであります。

昔之話

昔し々々爺やと婆やとがありまして、爺やは山へ柴刈りに、婆樣は川へ洗濯に行つた頃よりも、もう少し古い時代の事柄を今度は一寸皆樣方の御聞に達しませう。

衣食足りて禮節を知るとか申しまして、我々凡人は生きて行くに、何より大切な者は、まづ衣食住の三つでしやう。今日の我々は樺太の鮭も頂けば、印度

の胡椒も食べる、佛蘭西の葡萄酒も呑めば、埃土及の葉卷もふかす、以多利亞でチルを作る、それも宜しい。濠洲の羊の毛では羅紗を織る、夫れも宜しい。八丈島の絹八丈、薩摩の紺飛白、何でもござれかでも御座れ、擧句の果には支那の奥の、天竺の奥のカシミヤ國の產物まで持て來て、不斷の著類に使用する程で御座います。住居に致しましても其通り、エジプト式の建築とやら申す博物館、古羅馬風のニコライは扨措き、吾々風情の家居までもやれ北海道の鹽地だの、やれ臺灣の樟の天井板だの、やれオランダの窓硝子だの、やれ亞米利加製のカーテンだのと、其便利の良い事、其大自在の利く事は、佛說にある阿修羅王も迚も敵はぬ位で御座います。

併し之程の好都合は、一體何時頃から出來る樣になつたのだらうかと申しますと、之はほんのつい此頃來の事で、近い例が、カステラ（之は本は西班牙國の一つの州の名です）が西班牙から來たのは、百年計り前の事、南瓜がカンボチヤ國から渡つたのも、軍鷄が暹羅の國から參つたのも、但しは馬鈴薯が、東印度諸島のジヤバ島の首府、ジヤカトラ市（之は今ではバタビヤ市と申します）から傳來したのも、同じく世は德川の、元和偃武以後の事です。毎日の樣にたべる御香の物の、澤庵漬を發明した澤庵禪師は、秀忠將軍の頃、隱元豆を持つて遙々廣東の方から隱元禪師がやつて來たのは、同じく三代將軍の時世です。御菓子の中では一番古い、云はゞ御菓子の元祖の砂糖餅が、初めて出來たのも、矢張り德川氏の中葉の事で、戰國時代の英雄、豪傑は、菓子は愚か、御砂糖さへも見た事がない位でした。だから芝居の千代萩で「右大將賴朝公より下されし御菓子」などゝ申すのは、飛んでもない大法螺です。

前置きを大變長くしておいて、之からいよ〳〵本文に取掛りますが、扨其大昔の、桃太郎よりまだ昔の、我々の本當の御先祖、則神武天皇樣の頃の日本民族は、全體どんな風の生活をしたらうかと申しますと、德川の初めでさへ前申した調子ですから、其質素な

事は固より、今からは想像も付かぬ位ですが、そこを無理に想像を付けて、神代から萬葉集の頃まで、則國史に所謂太古時代の、衣食住の樣子をざつと御話致しませう、固より專門に研究致した事でもなし、唯二三の書物を讀む折々に心付いて記憶に殘つた事柄丈を、かいつまんで竝べ立てるのですから、ひどい間違は云はないつもりですが、專門の方が御覽になつたら、可笑いと思召す事や、詰らぬと御思になる事が澤山でしやう、此處の所は幾重にも御容赦を願つておきます。

序ながら一寸申しますが、桃太郎だの、猿蟹だの凡て大變面白い、又味も深い御伽話は大抵足利時代に出來たのです。

第一、衣の事

昔は著物の事を「も」或は「そ」と申しました、今でも袂の事を「そで」と云ふ「そ」では則「そ」の手、或は衣の手、「我ころもではつゆに沾れつゝ」の「ころもで」と同じ事で、取りも直さず著物の手の物分といふ意味です。

延喜式祝詞に、「御衣は明妙、照妙、和妙、荒妙、五色の者」とあげてあります。此の語義に就ては、種々の說もある事ですが、大體「たへ」と申すのは、布類の總稱と心得て宜しいでしやう、そこであかるたへ、てるたへ、又は白妙とは、何れも眞白に光明ある布の事、和たへとは柔かな物荒妙とはこはいものゝ事であつて、和たへ、しろたへは穀の木の皮から製し、粗妙は麻の皮から作つたものであります。丁度今時の織物に喩へれば、和妙は越後上布、(之は苧の皮より作る)あらたへはかたびらに當るだらうと思ひます。之を五色の色に染めて、神樣にも奉り、若い少女の晴着にもしたのです。

こういふ植物の皮の纖維を、麻(則今の絲)に製するには、一本一本手先で引いて、之を桛へ(則今のかせ)に卷いたものらしいですが、之を織つて反物にするには、相應に發達した織機があつて、筬だの、杼だのまで揃つて居つたのです、麻織と云ふ古語や、

服織と云ふ古語や（をうみは麻を績む則紡ぐ事、はい、とりははたをりの約）又瀬織津姫の命と申す神名など の様な、紡織の證據となるべき事が、澤山に記紀祝詞の類に出てをります。

例へば崇神天皇の御時、初めて男には弓筈の御調、女には手末の御調を課したとかいてある。其手末の御調と申すのは、手の末の貢、則手先で作つた者の事で、主には織物及び殊に絲類の事でしやう。又祝詞にも「御調の絲」と云ふ言葉も出てをります。弓筈に對して、機織とか、何とか申さずに、手末の御調と申した事や、又特に御調の絲とある事などから考へますと、どうも絲は重に指で引き出して作り、又女の御調には、主に絲を奉つた者らしくて、之を少しあとには、特別の専門役、則服部（今つまりてはつとりと讀む）が御調の絲から御用の布を織つた者らしいのです。一般には手末の貢は、布帛の事と解せられてをる樣です。

もう一つ、今度は機織の方の例證を申しますと、建速素盞男尊が、高天原で亂暴をなすつた、有名な御話の一節で、古事記の神代卷に、

天照大御神、忌服屋にましまして、神御衣織らしめ給ふ時に、其はたやの頂を穿ちて、天の斑駒を逆剝にはぎて、墮入るゝ時に、天の衣織女見驚きて、梭に云々。

とかいてあります、隨分と思ひ切つたいたづらもある者で、機をおつて御いでになる最中に、天井から皮のづりむけた馬が落ちて來たのだからたまりません、流石の慈愛深き大御神も、

見投こみて天の石屋戸を閉てさし籠り座ましき云々

とあつて、之からが天地大暗黑の幕と相成るのです。

閑話休題さて、績麻或は一般に麻則絲類は、輪形に卷いて、麻笥に入れて仕舞つて置いた。隨分金のをけ、則今時で申さば黄金の絲笥などを使用した人もあつた樣子で、兎に角絲といふ者が尊ばれた事、隨て、絲の製造が仲々容易でなかつた事は、凡そ作ら

想像がつくのです。
前にも一寸申しました樣に、布類は白無地のまゝ用ゐたのが固より澤山にあつたでしうが、

春すぎて夏來たるらし白妙の
衣ほしたり天のかく山　萬葉

又種々の色に染めたのも少くはなかつた。その色合は赤、青、黑、黄など、色素の原料は大抵草木の汁から取つた者ですが、又あか丹、則赤土も大に使用せられました。染木が汁とか、赤丹の類とか、さ丹塗とか、青丹よしとか、其外色に關する事柄が大部數多く成書に出てをります。
これ等の色を用ゐて、絲を染めたか、或は布を染めたか、但しは出來上つた著物を染めたかと申すと、之は今日も同樣に、矢張り三通りの仕方が行はれた樣です。
染絲を用ゐて織れば縞物が出來る　染絲のあつた證據には、上代にも矢張り縞物があつて、之を倭文布或は單に倭文とも稱へました。

古への倭文はた帶を結びたれ
誰とふ人も君にまさなく　萬葉

布を染めた事は「明妙照妙和妙荒妙五色の物」とあるので明かでしやう。
又縫ひ上げた著物を染めたらしい證據も、澤山あります。例へば、

月草に衣はすらん朝露に
そめての後はうつろひぬ共　萬葉

月草は、今の露草、或は螢草の事で、その花瓣を取つて白布をそめると、美しい瑠璃色に染まる。之は上代に盛に行はれた染め方で、今でも多少は用ひられてをるそうです。陸奥の忍ぶ文字摺誰ゆへにと申す其文字摺も、又萩が花摺と申すのも、矢張同樣に草葉或は花のしるを摺りこんで、白布を染めた者なのです。藍も余程昔しからありました。」
か樣にして白無地、黑無地、其外色々の無地の反物から、乃至は縞の反物まで出來ましたが、扨反物が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出來て見れば之をたちぬひして、著物に仕上げねばならぬ、たちぬひの法も可成の所まで進歩してをりました。

第一にまづ縫ひ方は、ぬふと云ふよりも寧ろ綴ると云ふ方が良い位で、縫ひ目の極く大まかな、千鳥掛け一點張であつたらしいです。夫から其縫絲も、絲と云ふより、寧ろ線とか、紐とか云つた方が良い位、至極丈夫向きの、云はゞ粗末の品であつて、布の經緯の絲、則所謂麻其まゝの者か、或は之を二三本位より合せた者を使つたのです。

針は千枚通しの様な者即ち錐ぢや無かつたらうか、或は夫よりももう少し重寶な者か、兎に角今の様な、細くて、鋭利で、殊に針眼の付いた便利至極の者とは、大分相違であつたでしやう。

裁縫用に限らず、凡て刄物は鐵器を用ひました、支那人などは餘程後世まで、銅製の切物計り使つて居たのです。

之で麻から布もでき、絲もでき、切物も、針も揃ひ、ぬひ方まで御話がすみましたから、いよ〳〵著物を造る段取となりましたが、一體昔の人は、どういふ種類の著物を作つたでしやうか。

まづ第一は狹い意味のきもの、則今の袷、綿入の様な者です。あとにも申し上げますが、上古にはまだ綿といふ者も、眞綿といふ者もありませんでした。だから固より綿入著物はあらう筈がない。昔し唐土の閔子騫といふ人は、孔子様の門人中でも、殊に德行の譽れの高かつた人で、繼母に仕へて孝行を盡しましたが、我兒かあいさ、まゝ兒の苦くさは、東西古今を通じた人情と見えまして、母親が實子は、眞の綿入、閔子には薄の穂入れを著せて置きました。或極寒の日の事、父の前で幼小の閔子が、思はず知らず慄へたのを見付て、父親が穿鑿すると、右の次末。そこで父が大變怒つて、そんな母親は直追ひ出さうと申された時、閔子騫の答に此まゝであれば、私一人が寒い時慄える丈ですみますが、今私故に母様が餘所へ御出になりますと、次の母様に弟のあ

つた時は、二人のまゝ兒が揃えなければなりません。ですからどうぞ何事も此まゝに」と、父親の袖にすがつて歎かれました。夫程の孝心が天にも通じて、後には母親もわけへだてなく、二人の兒を可愛がる様になつたと申す事ですが、皇國の上古には薄の穂も、乃至は獣類の毛も、綿入の綿代りに用ひられたといふ文獻が一向見當りません。

袷も多分なかつたらうと思ふ、却て歴史的には綿入の方が、袷よりも先さに發明せられたらしい位です。だから昔の人は寒い時は何枚も單衣を襲て著て、著物とては單衣物計りだつたらうと思ひます。平安朝の十二單衣なども、或は上古の遺風では無いでしやうか。

今の羽織に相當する者は、八千戈の神が越後まで、妻覓に御出になつた時、

……大刀が緒もいまだとかずて
おすひをも未だ解ねば、をとめの
なすや板戸を……

と御歌ひになつた、其「おすひ」が、今の羽織若しくは外套だらうと思はれます。尤先人は之を貌を隠す料、則今の面紗だと説いて居ますが、どうも陣羽織とか、外套とかした方が、意味も好く通り、事情にも適ふかと思はれます。之は猶識者の訓を乞ひたい者と存じます。

肌に直ぐ著く物では、「はかま」と云ふ言葉が繰返て目に止まる。之は今のたつつけ袴の様な者か、猿又か、或は六尺褌の事か、中でも一番最後の者らしいと思ひます。其外に今風の襦袢だの、しやつだの、もゝ引だのは、大昔の人は知らなかつた者の様です。帶は男も女も幅の狭いものをしめて居りました。尤現代の様な一幅以上もある様なのは、徳川氏の稍末頃からの流風なんです。

以上で大體の服装丈はすみましたが、此外にまだ襷だの、「ひれ」(今の肩掛に當る者)だの、衣笠だの、「みかげ」(帽子或は冠)だのは、衣服に準ずべき者で、「ぬさ」だの、「みてぐら」だの、「ゆふしで」だの(何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れも帛幣の事）及び其他の類、直接衣服とは關係がありませんが、何れも皆和妙、荒妙から作つた者です。

著物のゆきたけは、埴輪などで見ますと、みんな頗る短かい者計りですが、女物などには裾の長い者も無いでは無かつた風です。

…………　…………
さ丹塗の　大橋の上ゆ
紅の　赤裳裾引き
山藍もて　摺れる衣著て
唯一人　…………　万葉

しかしくれないは呉の藍、則支那の呉國から傳來のあいと云ふ事ですから、此風習も三韓を傳はつて、間接に支那から參つたのかも知れません。一般に著物のゆき丈の短かかつた事は、手首には手結、或は手環、足首には足纒と云ふ樣な、金玉の飾を付けた事でもわかります。袖は筒袖が主で、振袖は稍後の者かと思ひます。

かふ云ふ仕立ての、多くは紅、或は青無地の著物を、右前に、胸を廣く著て、細帶を前方に結びたれて、花色の肩掛をかけて、髮には髮刺の花をさし、又は若草のかつらを被り、頸には曲玉、管玉を連ねてかけ、紅玉の手まき、碧玉のあゆひをとりつけて、花筐を手に〳〵に提げて三三五々春の春日野あたりを、摘草にあそびあるいた、少女どもの姿は何程優に、やさしい者であつたでしやう。

絹物其外の事、又食住の事は、此次改めてうかゞひます。末乍ら一寸申して置きますが、以上の御話は、大抵皆三韓の文物が傳來したよりも以前、則天地開闢から、皇紀凡そ九百年代、神皇皇后、應神天皇の御宇まで位の御話ですから其御積りで、其後の事も亦此次に申し上げましやう。

鹽の效用

食鹽と云ふものは、貴賤貧富を問はず何處の家でも

用ゐ、一日も缺くべからざるものになつて居りますから、決して珍しいものではない、然しそれだけ又必要な物ですから、唯食鹽は色の白き鹹辛きもの也とだけでは、餘り簡單ですから、少々これを敷衍してお話致さうと存じます。

そもそもこの鹽と申しますものは、化學上純粹のものはナトリウムと云ふ金屬とクロールと云ふ瓦斯で出來るのであります。而かもこれが又吾々人間の生活に缺くべからざるものであることは、身體内の液にも組織にもこれが含まれて居り、一定時間には一定量の鹽氣が欲しくなるのでも分かります。實際血でも汗でも尿水でも皆鹽氣を含んで居る。それで每日吾々の身體からは十五六グラム位の食鹽が外に出されますから、少なくともこれだけは補はなければならぬ譯ですが、尚ほ食鹽は消化器の内に於て食物の消化を助け、吸收を善くするものであります。腸の下の方から榮養物を送る卽ち滋養灌腸を施しますときには、牛乳とか卵のやうなものは、食鹽を加へませぬと吸收し方が惡るい、食鹽を混ぜると能く吸收されるのであります。それのみならず、一體全く鹽氣の無い物食は不味くて喰べられるものではありませぬ、特に植物性の食物、野菜の如きものを旨くするには是非鹽がなければなりませぬ。

斯樣に必要なものですから、國の東西を問はず如何なる人種でも餘程昔から鹽を製することを發明して居ります。海には海から鹽を取る法があり、山には山だけの法があり、寒國、熱帶それぞれの製鹽法がありまして、如何なる野蠻人でもこれを知つて居ります。我國に於きましては、伊弉諾尊の子鹽土老翁初めて海を煮て鹽を造ると云ひ、宇比地邇の神、須比地邇の神と云ふのも、宇比地邇は猶ほ海を煮ると云ふが如く、須比知邇は猶は鹹を煮ると云ふが如きなりなど〻解釋した人もあります。以上の解釋は頗る怪しいもので所謂コヂツケとも思はれますが、彼の鹽竈神社と云ふのは、本と陸前宮城郡に在つた志波彥の祠と栗原郡に在つた志波姫の祠とを合祀した

ので、その志波彦、志波姫の志波は卽ち鹽である、これが鹽を製し始めた神様だと云ふのは眞實らしく思はれます。その他古い記錄に段々鹽のことが見え、古歌にも鹽燒のことが幾らも歌はれて居りますから、所謂神代の時から絶えず鹽を用ひ來つたことは明かであります。

通常この食鹽を製するには、如何なる方法を用ゆるかと申しますと、海濱に鹽田を拵へて、その砂の上に海水を灌ぎ、日に曝らして乾かし、これを混せ反へして復た海水を掛けて乾かす、幾返も斯樣にして砂の中に十分鹽氣が吸收されたときにこれを大きな槽に移して、海水に溶かし、釜に入れて蒸發させます、さうすると食鹽が出來るのです。然しこれは前に一寸お話しした化學的に製造した純粹の食鹽とは違まして、海水の中に含むで居る成分は殆ど總て含まれます、特にマグチシア鹽類が主なるものでありまして、苦いやうな澁いやうな味があります、卽ち粗製の鹽です。そこで大きな桶の上に蓆を張つて、その上にこの粗製の鹽を撒げて置きますと、空中の水氣を引いて解けた所の粗製鹽分は下の桶に滴り落ちて、幾分か上等の鹽になります、この溶けて流れて滴つたのは、主としてマグチシアを、含むだ液で俗に所謂ニガリと稱するもので豆腐を拵へるときに用うるものであります。今日では我邦の鹽も餘程上等になりました。燒鹽は天文年間に和泉の壺鹽屋某といふ者が、普通の鹽を壺に入れて燒いて製したのが始めだと云ふことでありますが、花鹽と云ふのは普通の食鹽を再び溶解蒸發せしめて、花形の模型に入れて固めたものですから、これまた上等の方の鹽に屬したものであります。以上は海水から食鹽を製する手續ですが、扨て海から何百里も引込んだ山國では何うしたものかと申しますに、鹽は海にのみ在るものと思ふのは間違、山の奧にも鹽は在ります。處に依つては非常に大きな天然の鹽の層が山の中に出來て居つて、只これを掘て碎いて粉にさへすれば、それで上等の食鹽が得られる、石鹽と云ふて海の鹽

よりは遙に清潔な良質のものであります。然し又性質の悪い山鹽で、これを掘ても直に用うることが出來ないものであれば、その鹽の澤山ある處に穴を堀つて、此處から水を盛に流し込みまして、鹽を溶解して流れて來た水を、その下の低い所で酌み上げる。而してこれを、樹の枝を以て造つた蒸散屋に灌ぎかけますと濃い鹽水になりますから、これを煎じつめて食鹽に致します。

又土地の熱い寒いに依つても種々の製鹽法があつて、暖國では夏の暑い盛に鹽田に海水を引いて、太陽の熱で以て水を乾かし、砂に混つて濃くなつた鹽を、水で解かし、これを煮つめて食鹽の結晶とすることは前に既に述べましたが、寒國の方法は又面白いそれは、何うするかと申しますと、先づ鹽池の中に海水を導いて一夜そのまゝに致しますと、水が氷る、所で最初氷るのは純粹の水ばかりであります、そこでこの氷を池の外に捨てゝ、又殘りし水を氷らせる、氷らせてはこれを棄てゝ、仕舞ふ、幾度もこれを繰返しますと、遂には鹽分を澤山に含むで居る濃い水になつて來ますから、これを汲つて煮つめて鹽とするのであります。

食鹽製造のお話はこの位にして止めまして、兎に角何處の人間でも餘程昔から斯樣な方法を以て食鹽を製することを知つて居つた、つまり何れの人間も食鹽の需用を感ずることが分かります。そこで再び鹽の效能を申述べますと、前にお話致した通り、血液を拵へるにも肉を拵へるにもこの鹽が必要である。通常健康な人であれば一日平均十五乃至二十グラム位の鹽を體外に排泄しますが、饑餓した動物の尿の中には食鹽は出なくなります、此時に食鹽を與へましても、身體が舊の通りに恢復して、不足の分が補はれぬ間は食鹽の排泄量は增して來ませぬ。これを以て見ても身體の健康を維持するには、是非食鹽の缺くべからざるものであることが分ります。この必要な食鹽は知ら識らず、種々の食物と共に體內に入り、又殊更鹽氣の物が欲しくなつて喰べる。但しこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れは其食物に依て相異がある、例へば植物性の食物を取るものは、肉食者よりも多く食鹽を欲するとか、都會の人よりも田舎の人は食辛いものを好むとか云ふ譯であります。それで人間一人一箇年に何の位鹽を用ゐるかと云ふと、先づ平均七キログラム、大約十五斤程になります。これ程必要な食鹽を、別に理由もなく、只馬鹿氣たる迷信に依て鹽絶ちなどゝ稱して長い間用ひぬやうなことがあります。さうすると人の身體は漸次疲勞の狀態を呈して動作が不活潑になり、皮膚の色艶が惡くなり、顏色憔悴と云ふ有樣で、何處までもこれを續ければ、遂には成佛して仕舞ふことになります。

併し物には程度がある。いくら必要の物でも、その度を過しては害になる。食鹽とてもその數にもれず、これを餘計に用ゐますと、反て食物の消化を妨げる。卽ち胃の中で溶けるときに多量の水分を吸ひ、又食品そのものを消化し難くし、胃部の苦痛となる。更に多量の食鹽を食すれば、血液の方から消化器の中へ夥しく水分を出しますから血液の水分が不足になつて來て、甚しく渴を覺える、從つて過量の水を飲む、そこで又消化を妨げることになります。元來西洋人に比して我邦の人は多量に食鹽を用ゐる、これは前にも申した食品の關係がありますが、日本人の身體の矮小なのは、食鹽を喰べ過ぎるからだなどゝ云ふた人も御座います。兎に角效能を見て、又害あることも知らなければなりません。實際病氣に依ては鹽絶の必要なものもあるのです。

食鹽の效用は實に廣大なもので、味噌、醬油を拵へるには無論のこと、野菜、魚鳥、獸肉類の醃藏、その他總ての料理に必要なることは何人も御承知のことですが、尙ほ諸種百般の工業上にも種々樣々の用途がありまして、一々枚擧するに遑あらずと云ふ次第ですが、それは措きまして、次に衞生就中家庭衞生上に於ける食鹽の效能を簡單に列擧してこの稿を了へやうと思ひます。

第一　喀血したとき、卽ち血を喀くときに、茶呑茶碗

に一杯位の食鹽水をグイと飲みますと、血の出るのが止むことがあります。

硝酸銀を過つて皮膚でも何處にでも垂らしたときには、直ぐ食鹽水を掛ければ、硝酸銀は作用しなくなります。同理に由て硝酸銀を飲むだ場合には食鹽水を解毒劑として用うるのであります。

癲癇持の人が、又癲癇が起りさうだと思ふときに、鹽水を一杯飲むで效のあることがあります。

咽頭、咽喉、氣管枝加答兒などのときに〇・五乃至一プロセント位の食鹽水を吸入して效があります。

又一乃至二プロセント食鹽水を以て鼻の中を洗ひ又は灌腸することがあります。

これは醫師でなければ出來ませぬが、大出血を來して、蒼白くなり、脈が惡くなつて、既に心臓の働も止まらうと云ふやうな場合に〇・六プロセントの食鹽水を靜脈の中又は皮下に注入して、生命を取留めることがあります。其他食鹽水の注射は治療上に於て種々の效果を現はして居ります。

次には浴湯料として、大人なれば一乃至五キログラム小兒には〇・五乃至二キログラムの食鹽を一浴中に加へて用ひます。これは盥の中に先に鹽を入れて、それに湯を注ぐ方が宜しい。

次に鑛泉の中に食鹽泉と云ふのがありますが、これは比較的多量の食鹽を含むで居る鑛泉のことで、諸種の皮膚病、僂麻質斯、脂肪の多い人などが入浴して效があり、又これを飲用すれば胃液の分泌を促し、食慾を進め、胃の運動も良くする作用があるから、榮養が衰へ、體質の薄弱になつたものや、胃癌や、その他慢性の胃加答兒で鹽酸の分泌が少なくなつて粘液を多く生ずる如き場合、又胃が緩むで働きの鈍くなつた場合などに飲用して適當だと云ふことであります。但し飲用には食鹽の含量が一〇プロセント多くとも十五プロセントを越へないものでなければならぬ。一體食鹽泉は一日にコップ一杯か一杯半位を飲めば、寧ろ便秘する傾があるが、もう少し多量に飲めば便通を良くし、多少風氣も減せしむるもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であります。便通を良くすると云ふ目的には、朝の空腹時に一杯頓服するのが最も效驗がある。

尙ほ此他衞生上、治療上に食鹽の效能は幾らもありますが、長くなりますからこの位で切上げて、ランプを破して石油に火の移つたとき、狼狽して水を掛ければ、火の油は水の上で燃て水と共に擴がるが、此の場合には灰か鹽を掛ければ直ぐ消える、火渡の藝をする時に盛に鹽を撒いて通るとか、葬式から歸つて來た時に鹽を振り、相撲を取るときに鹽を撒くとか、寄席、料理屋やその他待合、藝者や妓樓等の不潔な所の這入口に淸潔な防腐的の食鹽を盛りますにも何れそれ〴〵理由があるのだらうと思ひます。

空氣問答（承前）

その五、水蒸氣

前々號の御話の中で、「空氣中に普通ある炭酸瓦斯の分量は、百分中〇・〇〇三乃至〇・〇〇四」とあつたのは、〇・〇三乃至〇・〇四の間違で、又「百分中〇・〇一乃至〇・〇五以上あれば、人體に大變害を及ぼす」と有りますのは、一分中〇・〇一乃至〇・〇五、則ち百分中では一・〇乃至五・〇の誤りですから、一寸訂正致しておきます。

空氣中の水蒸氣の分量は、夏冬の時節により、又その日、その日の模樣により、又一日の中でも朝夕の時刻によつて、著しい違ひが御座います。一般に申さば、夏は空氣中に水分が多く、冬は空氣が大に乾いてをる。月分けにして見ると、六七月則ち梅雨期の空氣は最も濕ひ、一二月、則ち大寒、餘寒の頃が、一番乾燥した風が吹く、風と云ふ者は、申す迄もなく、唯空氣が流動する現象にすぎないのです。

日々の變化では、雨降り、雪ふりの日が最も濕い、雨あがり雪解けが、之に次ぎ、雨模樣の日などが又之に次ぎ、晴天の日は一番空氣が乾いてゐる。東風、南風の日は一般にしめつぽく、北風、西風の日は槪してはしやいでをります。學問的に申せば、東南風と云ふのは、太平洋南支那海などの上で蒸發した、

水蒸氣を澤山に含んだ空氣が吹いて來るので、西北風と呼ぶのは、西比利亞、又はゴビ砂漠地方で乾き切つた空氣が、我國へ御見舞をするものなんです。通俗に砕けて申せば、俗諺に、

東が曇れば雨となり、
西がくもれば風となる、
千石積んだる舟でさへ、
嵐が變れば出て戻る、

と云ふ譯です。

一日の中では、正午及び夕刻が一番空氣の濕つた時で、日出頃が一番乾いてをるそうです。

空氣中に含まる　水蒸氣の量を濕度と呼ぶ。濕度大なる日は、水蒸氣の多い日、濕つた日であつて、濕度の小さいと云ふのは、空氣の乾いたといふと同意味です。

大空中の濕度の多少は、空氣の溫度と相待つて、氣象學上、地文學上に多大の影響を來たしました植物、動物、取分け人體にも、著しい利害を及ぼしますから、次にはざつと之等の模樣を申述べませう。

但空氣中の水蒸氣の量、則濕度丈けでは、まだ之から生ずる影響、利害が明かに申されません。例へば夏の日は、冬の日より濕度が大きいに拘らず、洗濯物がよく乾く、又濕つぽい夏の日は、寒暖計で見ると、溫度はさ程までゞなくても、隨分と蒸あつく感ずる事があるし、又冬のから風の吹く日には、氣溫は割に高くても、寒くてやり切れない事もある。則濕度許りが、氣象、乃至人類に影響するのでもなく、空氣の溫度計りが、影響するのでもなく、兩々相待つて初めて深大の結果が生じ、又兩者を同時に知つた上で、初めてかゝる結果を研究し、評論する事ができるのです。

一般に氣溫が高ければ、濕度は大きくても、餘り濕つぽく感じない、又氣溫の極低ければ、少しの溫度でも大變じめ〳〵と嫌な心持がする。則人が濕つたと感ずる日は、溫度の割合に大變濕度の多い時、乾いたと云ふ日は、溫度の割合に水蒸氣の尠ない日な

のです。

唯人間の感じがそういふ風である計りでなく、濕度が自然界に及ぼす作用や、變化も、丁度同じ具合に出て來るので、たとへば雨がふるのでも、唯空氣中の水蒸氣が甚增したと云ふ丈では、雨にならぬ事もある、溫度は割に上らずに濕度は甚增す時が、終には必ず雨、雪の類となるのです。濕度と溫度の關係を、合せて考へた觀念を、比較濕度と名け、之に依ると、大に物事がわかり易くなつて參ります。比較濕度と云ふ者は、人間の皮膚の感じとほゞ一致して行く者で、濕つぽいと感ずる日は、則比較濕度の大きい日、乾いた日と思ふのは、比較濕度の小さい時に當ります。

大氣中の比較濕度が次第に增加して、もう此上は空氣中に、水蒸氣を含む餘地がないといふ時になれば、水は少しも蒸發して水蒸氣にならない。だからこういふ樣な時は、濡れた者は少しも乾かず、どこもかしこもじめ〳〵して、大變不愉快に感ずるのです。

此の如く飽くまで空氣中に水蒸氣を含んだのを、飽和濕度と名けて、氣溫が高ければ、飽和するまでの水蒸氣の分量は多く、氣溫が低ければ、僅少の水蒸氣が有る許りでも、空氣の濕度は飽和の有樣に達する事があります。

その六、雲、雨、雪、

大氣が一旦飽和濕度の狀態になつてから、次第に氣溫が降りますと、其空氣中には下がつた溫度に對しては、其飽和以上の水分が含まれをる事になる。か樣に餘分になつた丈の水蒸氣は、是非共その姿をかへなければならん事に立到りまして、そこで雲だの、雨だの、雪だの、或は霧だの、霞だの、露だの、霜だのが出來て參るのです。

南の方、赤道に近い太平洋、若くは南支那海では氣溫が頗る高い、此處で夜がな、日がな蒸發した水蒸氣は、隨分澤山空氣中に含まれる譯ですが、そこではまだ仲々飽和の狀態に達しません。此空氣が風となつて、日本あたりへやつて參ると、日本の氣溫は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤道近傍に較べて、十度も、廿度も低いですから、同じ丈の水蒸氣の量でも、日本では稍ともすると飽和以上の多量に當る。

空中の水蒸氣は、何時でも南洋から來ると許りと限りません。無論日本の近海でも、或は内地の河沼からも、特に雨あがりなどには地上からも盛んに多分の水蒸氣が蒸發致しますが、水は一旦水蒸氣と成れば、空氣よりもずつと輕くなりますから、次第々々に高い空中へ昇つて參ります。

上述の樣な種々の場合に、若し高い空中の所で過飽和の有樣が生ずれば、過分の水蒸氣丈けは極く細かい、——顯微鏡で見る程の水滴になつて、群居して非常に大きい塊を形成する、之が普通の雲、則雨雲や春夏の多くの雲です。

夏雲多奇峯。　陶淵明

雲の峯四澤の水の涸れてより　蕪村

若し非常に高い空中で、過飽和の水蒸氣が凝縮致しますと、其時は水滴とならずに微細な雪片となる。之れが夏秋の交に折々天の一方に見える、鱗雲、則ち魚鱗の形をした眞白の、光輝ある雲と雪と成る、空中では高く昇る程溫度が低くつて、極くの高所では氣溫が攝氏の零度以下だからです。

此雨雲を作つてをる細微な水滴が、次第に多數固まつて、終には稍大きい水滴となり、急に地上に落下する時は之が則所謂雨です。若し雨が降る途中で、非常に冷却せらるれば氷結して雹となり、霰となる。又雨雲がまだ雨とならん中に氷つて、夫から降ると夫れは雪です。雪が降つて來る途中で半ば融けたのが則霙です。若し雲の天邊で出來ずに、地上で出來た場合、則過飽和濕度の狀態が、地上で生成した時に空氣の溫度が零度以上なれば、之が春は霞、秋は霧となり、

舟が霞にかくれて舟が
霞から出る春の海

霞、霧を形成る細微の水滴が、樹下、石上、葉末、花影で澤山集合すれば、地上の雨、則露になる。若

し其時の溫度が極めて低ければ、地上の雲卽霜になるのです。

徒然草に、さる大德の聖が、命終の時に「此世に思ひ殘す事更に無し、唯空の名殘のみぞ惜まるゝ」と、申されこそうですが、春秋の眺めの中で、最變化に富み、又最美しい者は空の景色、殊には雲の姿であらうと思ひます。我國には惜しい事に大空の美を歌つた詩人、並びに詩歌が極く些ない樣です。近頃亡くなつた英國の詩人ラスキンは、甚空のけしきに趣味を持つて、殊に雲の色々、そのたゞずまひなどを委細に研究したそうです。

渡つ海の豐旗雲に入り日さし
此宵の月夜明けくしそ。

奈古の海の霞の間より眺むれば
入り日を洗ふ沖つ白波

太陽の光を三稜のガラスで分拆すると、美麗な七色の光線となる樣に、雲、卽ち細微の水滴が、日光を色々に細工して、或時は眞紅に見え、或時は黃に見え、或時は紫に見え、又或時は縹色に見えます。之が朝暉夕暾の理屈です。

水蒸氣と日光との爲に出來た現象の中で、一番奇麗な者は虹でしやう。虹には赤、橙、黃、綠、靑、藍、紫の七色が悉く備はつて、天の一方から天の一方へ、虹橋の樣にかゝります。昔しの人は其美しさを讃歎するの餘り、之は七夕つ女が織つた者で、天上玉帝の帶であらうと考へました。虹は大抵二つ近くに列んで、並行してをる者ですが、場合によるとその中の一つが色が薄くて、好く見えない事もあります。つまり水蒸氣が三稜鏡の役をして、白色の日光を分析して、七色に致したのです。

御日樣や、御月樣が笠を御かぶりになるといふのも、同樣の現象で、所謂笠は唯圓形をした虹に過ぎないのですが、晝は餘り明るすぎる爲、月夜は餘り暗らすぎる爲に、兎角、笠の七色が明瞭とは見えません。氣象學上の影響は之位に止まして、此次には濕度の生物、殊に人間に及ぼす利害を申上る事に致ませう。

育兒

乳母傭主の心得

この一篇は婦人衛生會特別賛成員宮本仲先生が特に本誌育兒欄の爲めにせられたる談話の梗概なり

今日は好く御尋下されました。併し雑誌の原稿を認めよとの御注文、それは少々困却致した。御厭い御用と申したいが、是迄皆様が段々と種々の方面を御話に成りましたから、私が何を御談して善いやら其題目に差支へるから困つたです。然ればといふて折角の御請求に背くのも甚恐縮に存ずる、就ては前號に乳母選擇の件が載つて居た樣ですから、私も其尾に連れて傭主の心得方を少々御話申して見ませう。或は重複に渉つて口眞似する如き所もあるでせうが、そこは御免を願い度い。

チト餘談から初めて恐れ入るが、彼の婦人衛生會、あれは誠に善い會です、無遠慮に申せば著明な活動も顯はさず、派手な事業成績も輝やかしては居らぬ樣ですが、併し今や追々と國家に大功德を普及しつつ有る事は實際である。赤十字社や大日本婦人協會などに較べますと細小なる會合といはねばならぬけれ共、決して彼等の會に劣つた所の公益のみでは無い。婦人衛生會は國家富強の根原に大利益を與へつつある事は目下爭はれぬ事實である。茲に私が申す迄も無い。衛生なるものは國家富強の基である。而して其尤も基礎をと尋ねる時は各自一個人、各人一家庭是れが段々擴大延及して往くのである。故に此衛生會の如きものは全く其原子である。而して既に二十五年の星霜を積んで、此間各自の家庭は勿論、其奴婢、傭人、出入者等へと漸々に傳へて、衛生思想を喚起し、それより又た傳へ傳へて遂には世間一般に此思想を鼓吹された。即ち今日迄施された其功能は幾許大であつたらうか測り知る事の出來ぬ程であ

ります。

そして婦人達の事業は兎角中道にして廢れ勝ちが多かつた彼の頃に於て、能くも奮勵忍耐して、會の發達を今日迄決行して居られる。甚だ感服の至です。殊に役員たる皆樣の御熱心が、誠に能く一致して居るのは結構な次第であります。故に皆樣の御精神には、決して大小厚薄等其差別の有りとは認めませんが、殊に濱尾男爵夫人の如きは、極の最初から二十五年一日の如く、少しの緩るみも無く張り切つた御熱誠を此會に御注ぎ成されて在られますには一層服敀の次第、啻に此會のみならず、衞生普及の慈母と稱して宜いと思ふ程です。

サテ乳母の選擇、それは數々諸先生の御講話を御聞きになつた事でせうから、既に宜く御承知であらう。私も二十年以前乳婆の選擇並に牛乳の改良等を御會に向つてお話した事もあつた筈です。實に此れは必要のもので、此事が不行屆では折角乳母を傭入れ、入費を掛けても、反て惡い結果を視る樣になる、宜く御注意あらねば爲らぬ、併し世間では乳婆の選擇は醫者に專任すれば事足るものだと思ふて居られる方々が往々にして之れある樣です。是れは甚だ大なる間違と思ふ。成る程乳母に就て其體質健否及乳汁は、醫者に於て責任ある檢査を實行するものであるけれども、而かも彼れが身元、彼れの性行、並に彼れ自身の攝生、小兒取扱の狀況、等乳婆常任一切の事は、總て其傭主たる人が大々的注意を加へて、それを選擇し、それを監督し、それを誘導しなどして遣らねば爲らぬはず。然るに傭入れは爲したが、全然監督もせずに放任し置いたり、若くは過度の干涉を加へたりなどからして乳汁の惡變を來したさいふの類例は誠に少く無い。若し然樣の事があれば、それは乳婆も惡いが、其罪は半ば傭主自身が自ら招いた禍に歸して然るべしだと思ふ。宜しく愼まねばならぬ。即ち其注意の要點を少々申して視ませう。即ち乳母の精神に就ていへば先づ乳母を傭ふ最初に吾が信ずべき醫家に診査を賴む。而して及第しまし

たならば、普通一兩日は目見得として置て、雙方傭否の合意を待て後確定するのです。故に折角上等の乳婆と診定され、目見得にも主人から善いと認められても、乳母の方から御免を蒙むつて退去して仕舞ふのもある。反之乳母が善い御家だと氣に入つても、奥様の方で嫌ふて否認して仕舞ふのもある、中々面倒のものです。併し如何に面倒でも、相當の手順は踏ませねば爲らぬ。唯だ其手順が適當を越へて過度と爲るのとは反て往かぬ、往々如何にも馬鹿々々敷とまで思はれる程八釜敷くいはれる方がある。是れ等は少々反省される方が宜しい。今其實例を舉げて視ますと、診査及第で目見得に上る。第一に奥様に拜謁する（恐縮を感ずる）次に臺所に在れば甲乙の女中が來り、四方山の話で其氣を試驗する（究屈を感ずる）總て陰言に行儀の善惡、言語の訛り、甚しきは、お面の品評など迄口々にいふのが聞ゆる（不快を感ずる）それから愈々赤さんに乳房を附けるといふ段に爲ると、其周邊には幾人かの女中が取り卷いて種々な下傳を爲る（其實お世話が過ぎ、反て迷惑を感ずる）それから烏渡哺附き兼て赤坊が泣きでも致しますと、授乳の仕方が下手だとか、氣がきかぬとか、尙々世話を燒く（心配を感ずる）此れ等は乳婆の下慣れた自身の手方減に任せ置けば却て吸附き易いのを、彼是と注文するから惡い。赤ン坊も泣き初めたら尙ほ吸はぬ、そして泣聲が愈々高くなる（哀憐を感ずる）斯樣な精神感動が一日も繼續したならば、如何に能く乳母試驗を行ふた上で、乳性の善良、乳量も十分と認められたものでも先づ第一に乳の分泌量が減少を初めて來る。總て乳の性分に變化を來すといふ結果が顯はれるに違ひ無い。そこで傭主の方では、試驗には及第したが實際乳汁が不足である。斯くては行末如何との疑問が起る。成程實地上溜め乳を以て醫家を瞞著しようと巧んで來る奴が隨分澤山あるです。乍去其義は經驗ある醫者が試驗すれば、溜め乳は乳の色から、重さ性分等に至る迄自然違ひますから、其欺瞞は直に發見し得られるものであり

ます。故に醫者が檢定して及第した者は、試驗者なり傭主なりに對つて虚言したものでは無く、全然一時急遽の精神感動より頓に分泌減少を來たしたのに違無い。此等の類は豫め傭主が承知して、其目見得の頃に能く注意を加へるならば、全く防ぐ事の出來べき弊害であらうと思ふ。此弊害は一寸致した樣な話しですが、決して然樣で無い。我々は實際澤山に遭遇して誠に困却する問題であります。眞に乳も善し、體質も善し、氣も優美しさうな卽ち十分な乳婆だと認めた其乳婆が、目見得中又は兩三日の後乳不足と爲つて、止を得ず不傭若くは解傭といふ無緣話しを結果する樣なことに爲るものが少く無い。實に可惜事ではありませんか。サテ其乳母が不緣解傭後どうかといふと、歸宅兩三日に爲ると再び全く善良の乳汁を十分に分泌する樣に爲る。是に於て他に良緣あつて奉公住を爲ると、今後は實に羨しい程に乳が適當して、其兒が能く發育し行く。之に反して以前解傭した方の兒は、乳に迷ふて未だ〳〵瘦せこけて居るといふ樣な不幸の例に隨分遭遇するです。故に不理屈と思ふ然樣な場合には、私共は非常に嚴しく傭主に其理否利害等を說諭して反省を促しますけれ共、然かも斯樣の事實を認むるのは、神經質の人で、生ゝ半ちやく醫者の事など聞き覺えられた家に多いですから、反て始末が惡い。先人主となつて、誤解に誤解を重ねたのは、容易に得度が出來兼る。乳婆の試驗及第者が其日見得中に於て受る批評は、腋臭がある、顏附きが物騷だ、居動が邪險らしい、或は言語が荒しい、行儀が惡い抔の類で、此等の評が御目見得落第の個條と爲のです。尤とも是れは嬰兒に感染するといふ心配より選擇の條目とせられるといへば、一應は無理も無い樣だが、去りながら腋臭などは、生理的多少は誰もあるもので、論ずべき限りで無い。但し日本人では此腋臭は各人皆な嫌ひます。私も厭やですから、幾許か御尤もにも感じますが、併し決して乳兒に傳染するものなどでは有りません。顏貌も

亦た感染するもので無いですから落第の個條に算すべきものでは固より無い。そんな事いふて乳母に無益の心配を掛けるに及ば無い。又た顔附が佛頂だからといふても、心底から慳貪であるか無いか、又た居動言辭が粗野であるからといふて其性行が邪險である否か、是等は一日位の目見得で判明たものだか何だか知れたことで無い。殊に行儀が惡いなど〻評を爲る人もある。私は是等の人に對つては何時も斯ふいふ事を申して諭します。卽ち乳母はお嫁さん貰ふのとは違ひます。器量望みなど何の必要があります。牛は角が生て、寢て食て、排泄するまで皆んなお客の前でも何んでも致します。御主人の前だからとて御辭儀も何も致しませぬ、行儀の惡い位は大目に赦して置かれませ、如何に氣が利かなくて、無行儀だからとて、牛よりは勝れて居るに相違無い。乳汁さへ善良で、乳婆の本分丈を能く守ることが出來るならば、乳牛よりは善しい牛を飼育すると思へば萬事足るではありませんかと、斯う申すのです。併し嬰兒の間に在ては言語擧動など自然授乳者保育者に似易いものでありますから、決して其乳母の性行等を度外視して、之を選むこと無用である、全く之を打捨て置けと申すのでは無い。是れは大に必要ではあるが、乳母は乳汁の善良といふ第一の主要と引較べて見れば性行は寧ろ第二の問題であるといふのです。乳婆を傭ふに保姆の如き選擇を主としては迚も十分のものは得難い。若し此の二の點ともに能く適合した乳婆が得られるならば、是れは完全無缺である。恐く眞實の御母樣にも容易に得難い程の人であらうと思ふ。或る家で其兩全なるものを得度いといふ希望で、私が何程申しても聞き入れずして、性行容貌等を選擇しやうと致した。然る所御目見得が十六七度で及第者が無かつた。遂々傭主が根盡きて牛乳に決心した。斯樣な人もあり、就中甚しきは毎回桂庵に手充を取らして取替引替して、乳汁試驗及第者を一兩日づ〻目見得させた。最も乳婆は實子を抱きて泊り込んだので、傭主は全く子持女の宿を

爲したも同然でした。然樣にして約二十人も選擇した、遂に桂庵に懸賞して良乳母を求めたが、桂庵も遂に閉口して御免を蒙つた。其中に乳兒は追々牛乳に養育される事に爲つて仕舞ふた、斯樣な馬鹿氣た人もあつた。此に至ては選擇の害も極まれりと言ふべしでした。尤も西洋でも注意深き人は、神經質の母に對しては、膽液質の如き悠然として大膽無頓著の樣の者が善いとし、陰氣鬱性の母には、活潑陽氣の乳婆を選み、貧血痩せこけた母には、多血肥滿の乳母を選み、都人には質朴な田舍出のもの、お轉婆の母には落着いた人が、適當する抔と生理上や心理上からも選擇の條項を論ずる人達が往々之れあります樣ですが、是れは聊か道理の存する所であるから、參考に供しても大に宜しい。併し腋臭や、顏貌や、御行儀などゝ論ずるのは餘り道理とも思はれ無い。唯だ是れは何の國かの成り上り一代成金の見得坊、即ち虛飾家の妄に言ふ所に過ぎ無いと思ふ。例之お伴に連れ歩行く時、容貌が醜では體裁が惡いとか、行儀や、辭遣が惡くては主人に對し無禮に當るとか、思にも附かぬ虛榮論が加味してる樣に思はれます。

乳兒脚氣の話

女醫　山尼浦子

追々時候が暖溫かになるにつれて、そろそろ又夏向の病氣が芽を出して參りますから、世の母方は此邊に大いに注意しなければならぬことゝ思ひます。以下少しく述べやうと思ひます、乳兒脚兒も其一つでありまして、本病は何時でも起り得るのでありますが、矢張り大人の脚氣の流行する時、即ち春三月頃から秋にかけまして多く起るのであります。

乳兒脚氣の原因、此の眞の原因は大人の脚氣の原因の不明なる如く、之も又不明であまりすが、乳兒脚氣は決して獨立して起るのでなく、脚氣婦人の授乳に依て起るのであります。

そうして現在脚氣を患いて居る婦人が授乳すれば、

勿論起り得るのでありますが、ずつと以前に脚氣を惱んだ婦人の授乳することによつても起り得るのであります、又此と反對に現在お母さんに脚氣の症狀が少しもないのに小兒の方に強い脚氣の發現を見る事があります、之は脚氣がまだ母體に潜伏して居つて只毒素のみが乳から來るのでありまして、後漸次母體にも脚氣の症狀が現れて來るのであります、右の樣な譯ですから乳兒脚氣に罹るのは生後一年位迄の、主に母乳に依て榮養されて居る小兒に來るのであります。さて脚氣に罹つたら如何なる症狀が來るかと申しますとザット次の樣な變化が參ります。

一、吐乳　多くは最初に吐乳を以て起ります、一日二三回より數回の多きに至るのです、そして漸々顔面が蒼白なり、其迄よく笑つた小兒も段々笑はなくなり、哺乳方も減じ非常に啼泣易くなるのであります。

二、大便　便通は或時は顆粒の混つた下痢便のこともあり、又或時は便秘することもありまして不定です。

三、呻吟及聲音斷唖　其から小兒はウンウンと呼吸時に一種の音聲を發して呻吟し、如何にも苦しそうな狀態を呈して參りますと續いて聲が斷唖て來ます、甚敷くなりますと全く聲が出なくなりますので、其時は只顔面の表情によつて泣いて居ることを知るのであります。

四、呼吸と脈搏の增加　之は最も重要な徴候でありまして、呼吸などは四十以上になり脈搏も百五六十に增加し、乳兒は非常に苦悶の狀を呈して參ります、(呼吸數を算するには手を輕く腹壁に置き腹部呼吸動搖によつて數ふるのです)

五、尿利減少　是迄一日十回以上も排泄した尿が僅かに三四回、甚敷き時は一日一回位に減して來ます。

六、浮腫及紫藍色　上記の樣に尿利が減じ、心臟の働きが弱くなりますので、顔面や手足の背面に浮腫が現れ、口唇の周圍鼻翼等の邊に紫藍色を呈し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て參ります、不注意の人だと肥つたのと間違ふことなどがありますから常に注意して居らなければなりません。

七、麻痺　時としますと上眼瞼が下垂して來ることがあります、之は神經卽ち動眼神經の麻痺に因由するのであります、乳兒脚氣に熱の出ることはありません。

乳兒脚氣の症狀としては以上述べた如くであります、此外他の病氣を合併した時は、又其々合併した病氣の徵候が加はりますのは申迄もありませんことです、然し何時でも上に述べた樣に規則正しく症狀が現れて來るものではありませんで、或時は聲が先に嗄れたり、下痢が先に來たり、稀には突然痙攣樣の發作を起して、腦膜炎ではないかと疑はしめる事さへもあり、又消化不良症の樣な症狀を呈したりすることもありますが、少しく經過を注視すれば直ちに氷解します。

療法　全く重症に陷らない內に離乳しますれば直ぐに治癒する至つて豫後の良好な病氣であります。

故に乳兒脚氣と云ふことが判明ましたら、直ぐに乳を止めなければなりません、但し玆に一寸御注意申上て置き度いのはたとへ母氏が脚氣に罹かつて居つても、小兒に何等の脚氣症狀を起さぬ場合がありますから、お母さんが脚氣があるからとて直ぐに離乳するは早計であります。

お母さんも、脚氣で乳兒も又脚氣に罹り愈々斷母乳をして、人工榮養に變換しなければならぬ場合には、必ず醫師に付て其榮養法を指示して貰はなければなりません、何となれば不適當な榮養法によつて元病たる脚氣は治つても、却て消化不良症等などで命を落はるゝ事かあります、殊に夏は小兒の腸胃病を起し易き時ですから、些の誤りから不測の過を招くことがありますからよくよく注意しなければならぬことゝ思ひます。

家庭衛生

汚拔法數則

衣服は知らざる間に汚れる、或は過つて汚すことが屡ある。若し衣服を纏ふことなかりせば、爲に身體が穢れる、或は精神までも不淨を蒙むるかも知れぬ。これから見ると綾羅錦繡の衣も何ならぬものではあるが、それだけ又汚れては痛ましい衣服である。洗濯法は普ねく知つて居るが、一寸した汚斑が著いた時に、頗る狼狽することがある。依て普通遭遇する所の汚點について、これが汚拔法の二三を紹介致して置く。

汗　汗がついた時には、單に水を以て洗ふて可し、稍ゝ時を經たる後ならば、水にアムモニヤ水を少し加へて塗るか付けるかすれば可し。

尿　小兒を抱いて膝にやられたやうな場合には、直ぐ拭いて、稀酒精に極少量の硝酸を混じたもので洗へば拔ける。

黴　何時の間にやら黴が生へて、驚かされたならば、天日に晒らして乾かす、乾いたならば叮嚀に刷毛で拂ひ去つて、矢張稀薄いアムモニヤで洗へば可い。

果汁　果物の汁が染み著いたとき、柿の澁又は酒や砂糖の如きもので衣服が汚れたときには、硼砂とアムモニヤを水に解かしたもので洗ふ。

油脂、油が染みたときは、石鹸水で洗ひ、又アルコール、ベンヂン、石油ベンヂエーテルの、如き揮發性のものを筆で塗り、熱灰を紙に包むで拭くか、或は吸墨紙を置いて、その上から燒鏝をあてれば可い。松脂でも蠟でも、髪の油でも乃至印肉、車の油でも總て油類、脂類の汚斑は此方法を以て拔く。黐や飴は糠を撒つて靜に揉み取る。

ペンキ　これはテルペンチンとクロロフオルムを等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分にしたものを塗つて、油拭の如く鏝をあてる。乳油拔きと同法を用ひ、尚ほアルコールで拭く。錆衣服を鐵釘に掛けて置いて鐵錆を附けるやうなことがある。これには醋酸をつけて水で洗ふ。或は湯で洗つて、枸櫞と酒石酸を等分にしたものを塗つて、水で洗ひ落せば取れる、又濃い石鹼水にグリセリンを混ぜたものに二三時間浸して置いて、水で能く洗い。インキの汚斑にも亦この法を試みる、或は石鹼で洗つた後にアルコールとアムモニアを等分にしたものを幾度も筆で塗る。

嗜好と嫌厭

飲食物は人に依て各々好き嫌ひがある。或人は甘いものを好み或人は鹹辛きものを好む。酸味を好くものあれば、殆どこれに堪へざるものもある。その他種々の食物は天然の物でも人の調理を經たものでも、特に好く人もあり、見るもこれを厭ふ人がある。これはそも〳〵如何なる理由に本くかと云ふに、大概幼時からの習慣で、小兒時代に一度旨しと思ふたものは好きになり、一度不味しと思ふたものは嫌ひになる。尤もその嗜好は小兒時代とは變つて、全く反對になるものもある。小兒の時には芥子、唐辛胡椒の如き刺戟性の香料矯味品などは好まぬが、大人には無くてならぬもの丶如く感ずる。斯樣に何でも喰べつけたものが、好きになる。それで山中で魚類と云へば乾物類のみを食べて育つたものは、生の魚は腥くして食えぬ、矢張少々臭味があつても鹽鮭や鱈の乾物の方が好きである。近頃の若いものは西洋料理や支那料理が好きだけれども、昔の老人はバタの臭は勿論、牛乳でさへ嘔氣を催して飲めぬ。これは何れも習慣の然らしむる所である。

然るに單に習慣にのみ依て嗜好と嫌厭が定まるのではない、こゝに一つ各人の體質に依て、生理的の要求から自ら嗜好すべく、又病的に嫌厭すべき筈の道理もある。例へば主として植物性の食物を取つて盛

に勞働する田舍の民は、鹹辛きものを好み、肉類を相當に取つて、餘り運動せぬ都會の住者は、自然鹹の辛いものを嫌ふのは、これは生理的しかあるべき譯である。糖尿病患者の砂糖を貪り、鹽酸過多症の人の酸味を厭ふは、これまた病理上しかあるべき理である。尙ほ又特異性があつて、或人は鰕、蟹、貝類、蛸、覆盆子、菌などに依て或は蕁麻疹を發し、或は又脂肪類を少しでも食すれば忽ち劇しき腹痛を起す人もあり、葱を食すれば直に下痢を來すと云ふ人もある。此等のことも食物の好きと嫌を定める一因であるが、全く只幼少からの我儘育に依つて、彼れも嫌ひ、此れも食べぬと云ふ人が往々ある。斯の如き人は男子なれば軍隊に入れば大概治はるが、これは女子の方にも少なくないやうに思はれる。實に厄介なものである。

今此の如き題を掲げて、斯樣なことを述べ來つた理由は、只次の二つの事をお話して、家庭衛生上に於ける參考に供したいと云ふ腹に過ぎぬ。

病人及び或食品に對する特異素因を有するものは除外例であるが、所謂我儘乃至贅澤、其他の迷信習癖の爲に、彼も食べぬ、此も喰はぬ、それは嫌いだ、これは絕ち物だなどゝ云ふて、自ら食物の範圍を狹めて居るものは、平素は宜しいが、一度熱病にでも侵され、又は消化器の病氣にでも罹つた時には、非常に困難をする。さなきだに食品選擇に窮する場合に、牛乳はとても飲めぬ、鷄卵は嫌ひだ、ソップなどは厭やだ、粥は好かぬと云ふことになると、醫師も看護者も持餘す。病人自身も榮養を保つこと難く、疾病の恢復も遲くなる、非常の損である。

次は看病者に對する注意である。前述の如く、人には各々食物に就て嗜好あり嫌惡がある。しかのみならず特異素因と云ふものがあつて、食するに堪へぬものがある。これを心得ずして、何でも病人には滋養分を多く含むで居る食物さへ與ふれば可いと思ふて、其嗜好を顧みずして、器械的にこれを攝取せむことを強ふるものがある、これは甚だ誤つたことで

ある、何故ならば、實驗上その好まざるものを強ひて食せしむるときは甚だ消化が惡い、且つ實際害を來すことがある。からである。尙ほその嗜好するものは、縱し其初めは害が有つたにしても、遂にこれに習れて、今では身體に適應して來て居るもので、格別害の無いものが多い。それを杓子定規的に禁止して、嘔氣を催すと云ふ程嫌ひな物を與へたとて效が有らう筈はない。これ等は、篤と醫師と相談の上でなるべく、患者の嗜好を顧みて、食物を選擇してやることが肝要である。

醫師を招ぐ心得（承前）

立合診察

古今東西を問はず、立合診察或は談合配劑などゝ申しまして、一人の醫師の外に數人の醫師を招ぎ集めて協議の上で治療せしむることがあります。これは種々の事情に依て起ることがある、第一に醫師自ら其病氣に就いて疑はしい所があつて、どうしても確診がつかず、從つて治療の方針が立たぬ如き場合に、相談の爲に他の醫師の招聘を乞ふことがある、又特に專門的の技術を要する爲に、その向きの醫師を賴んでもらふこともある。又重症で危險な爲めに自分の責任を輕くする爲めに他の醫師をも呼び寄せてもらはんとする臆病な醫師もある。以上は先づ主治醫の方から病家に賴んで他の醫師を呼んでもらうのでありますが、今度は病人又は患家の方で、更に他の醫師を招ぐ、これは特に大家、富豪には普通の事であります、其意を尋ねて見ますと、先づ主治醫に對する不信任で、この醫師では覺束ない、不安心であると云ふ所から、別の醫師を加へて治療をせしめやうとするのである。さう迄は無くとも二つの眼よりは四つの眼で見た方が確實であるとの考からすることがある。或は只だ虛榮を張る爲めに三人も四人も招ぐことがあり、主治醫の治療に依て、自分の思ふ如く病氣が恢復しないと、親戚とか緣者とか云ふ傍

の者から他の醫師を勸める爲めに、止むを得ず賴むこともあるでありませう。

何れにしても對診と云ふことは、醫師に取つては面白いことではありません。主治醫は無論のことですが、對診に招かれる醫師も頗る迷惑なものでありますこの場合に處する醫師の間の規律は略ぼ定まつて居りますから、互に感情を害するやうな事は無いとしましても、對診に招かれた醫師は主治醫に對して遠慮をし、主治醫も對診に招かれた醫師に對して多少步を讓ると云ふことは當然なことで、その折衷に依て定まつた治療方針と云ふものは、往々力のないものになる如きことがある。二つの眼よりも四つの眼で見た方が確かであると言はれますけれども、往往然らざることがある、弓や鐵砲で的を狙ふ時には故ら一眼を閉ぢる、三人も四人も醫師が集つたとて格別效は無いことが多い、一つの瓢を五六人で持運ぶよりは、一人で片手で提げた方が遙に都合が好いものであります。苟も今日の敎育を受けて居る醫師が、普通の病氣に對して、さう甚しく診斷治療の異る筈はないのです、それを主治醫が肺結核の初期であるから、成るべく滋養になる食物を取つて、新鮮な空氣を呼吸するやうにと言ふて居る所に、別の醫師は、これは肺尖加答兒だが、十分養生して、成るべく、郊外散步をし又は海濱にでも御出なさいと言ふた所で、診斷も同一、從つて治療方針も全く同一であるけれども、一寸でも言葉が變はると、前の醫師は誤診をして居る、此方の醫師の言ふことは如何にも尤もだと云ふやうなことが多いのであります。散藥が水藥になり、水藥が丸藥になつた所で、同種の藥劑は同じ效を奏するが、これでも醫師が異ると全く別な樣に思はれる。主治醫の方からの希望であれば、實際疑診を確かめ、又は專門醫の助けを要求する場合もありますから然るべきことですが、病家の方で對診醫を招ぐことは善し惡しと云はんよりは多くの場合損あつて得は無いものであります。要するに初めから十分信任することの出來る醫師を賴

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んで、飽くまで其人に任すには加かぬのであります。

應　接

醫師を招いた時に、急な場合は別として、普通は直ちに病室に通すべきものでない。何故なれば病人の前では醫師が豫め聞き度い事も聞くことが出來ない場合があります。それで先づ別室に於て、大體病人の様子を話し、醫師の聞くだけの事は答へて、それから病室に案内すべきであります。又人に依りますと妄りに餘計なことを話し出して、却て醫師を惑はすことがありますが、それよりは成るべく簡單に一通りの病歴を話じて、後は醫師の問に應じて答へた方が要領を得るものであります。それから診察が了ると直ちに、患者の前で病勢如何を尋るやうなことは、醫師に對しても病人に對しても善くないことで、是亦別室に於て、爾後の看護上の注意と同時に問ふべきことであります。

次に病氣が少しく長びくと、『この前病氣の時に何と云ふ藥を買て服んだら二三日で治つた』とか、或は『私は内に熱が有るのだらうと思ひますが』とか、『血の道なんですから』などゝ古代の病理學を擔ぎ出して陰然主治醫の療法を批評して、變法を促さんとするやうなことがありますが、醫師に取つてこれ程不快なことはないのです。元來病氣には今日の所如何に工夫しても、一頓に全治せしむることの出來ないものが多い、どうしても一週間或は月餘の經過を取つて初めて治につく性質のものがありまして、醫師は餘病を惹起さぬやうに、尋常の經過を取つて、成るべく苦痛も輕くして恢復するやうにと力める。斯様な病氣になりますと、醫師も種々の苦勞をするものですが、其所へ以て來て、譯の分からぬ批評をされ、處方の指闘まで蒙むることになると、張合が抜けて治療に骨を折ることが厭になるものであります。自分で賣藥を求めて療治を企て、或は神佛を傭ふて、その病軀を取扱はせようとするならば、それで可いけれども、醫師の手を煩はす以上は、これを神佛の使はされたる手だと思ふて、飽くまで信任し

て治療一切を委かせなければなるまいと思ひます。

手洗と茶菓

應診を依賴して、醫師が診察を了へた時には、必ず清潔な器物に湯を入れて、石鹼と手拭を添へて手洗に出すべきものであるが、病室に於て茶菓を出すは宜しくない、多少傳染性の病氣でもあれば、無論のことであるが、何れにしても病人を取扱ふ前後に其室で飲食を進める必要がない。本より禮儀の一つとして體裁までに出すとしても、病人に依ては、飲食を想像しただけでも嘔氣を催すものがあり、又は非常に欲しくとも決して飲食してはならぬ場合もありますから、これは病人に對しても善くないが、それを親切にも醫師に食せんことを勸め、甚しきはわざ〳〵箸で取てくれるやうなことがある、醫師は大に迷惑するのであります。これは寧ろ出さぬか、或は別の室に於てすべきことであります。

應診料

應診料は其場で差出すべきがあたりまへですけれども、又今後引續き來診を乞ふ必要のある場合には、後に一緒に謝禮するも差支はありますまい。其場で出す時には謝禮して、金高を問はないが、月末に藥價と同時に應診料を拂ふ場合には、醫院の會計からは規定通りの應診料を請求致します。これは各醫師會に依て一定は致して居りませんけれども、普通初めての往診料は二圓以上、再診以後は壹圓以上と云ふのが通常のやうであります、それで此の位の標準に依つて謝禮をすれば宜しからうと思ひます。稀には藥價さへ拂へば善いやうに考て居る人もありますけれども、實は診斷し、治療の方針を定め、藥は其處方に依て藥劑師が取扱ふのが當然ですから、醫師に對しては診察料だけが眞の報酬なのであります。それを顚倒して藥價を取るのが醫師の商賣の如く考へて、診察は無料でも損はあるまい、處方を書いてくれる位は何でもないことだと思ふのは間違です。それで往々人を藥賣扱ひにすると云ふて怒る醫師もあるので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報



○施療病院診療開始

京橋區築地海軍大學校地内の東京市立施療病院はいよ〳〵去る五日より診療を開始したるが、まだ一般市民に知れ渡らざる爲、受診者は餘り多くない、然し同院にては成るべく受附も簡單にして、只名刺に住所氏名を認めて差出さへすれば何人も診察を受けられるやうにし、引續き三週間通院しても尚ほ治ほる見込のないものは、そこで始めて所轄區長の證明に依つて更に外來治療を受くるなり入院するなりするので、何處までも廣く仁惠的に取扱ふ方針で、醫員も看護婦も極めて懇篤にして呉れるから、忽ち大繁昌を來すに相違ない。當分の所受附時間は初診午前七時半より同八時半まで、再來は午前八時半より同九時半まで、各科診療日割は左の如く定められてある。

一、内科　毎日
一、外科　毎日
一、皮膚及泌尿器科　月、水、金
一、眼科　毎日
一、齒科　火金
一、耳鼻咽喉科　月、水、金
一、婦人科　火、木、土

○記念水道共用栓

昨年大洪水の際に、水災善後會から記念として東京市に寄附された水道共用栓の配置を聞くに、淺草區五十一、下谷區四十二、深川區十八、本所區十五、小石川區十四、牛込區十一、本郷區十合計百六十一基で、その工費は二萬二千七百六十三圓五十二錢であると云ふ。

○盲啞兒童減少

學齡兒童の數は年々增加するが、その中の盲啞の數

は逐年減少して來る傾を示して居る、誠に悦ぶべきことである、卽ち最近五年間に於ける毎年兒童の數と盲啞者の數を擧て見れば左の如くである。

	兒童數	盲啞數
三十八年	七、五五一、四四五	一〇、八四六
三十九年	七、七五五、六五〇	一〇、六四五
四十年	七、九三九、四九八	一〇、四三七
四十一年	八、一八三、四一三	九、九九三
四十二年	八、四五五、六七六	九、八六四

○東京市民の牛乳飲用高

昨年來東京府下に於ける乳牛の總數は六千五百六十頭で、その搾乳石數は四萬六千七百七十一石三斗三升三合、平均一日に百二十八石一斗四升づゝ搾取されるわけであるが、これを東京市民全體に分配すると百人に五合四八、一人に付て〇、五四八といふことになるから辛うじて猪口に半分程宛しか飲めぬ。

○捕鼠の處分

滿洲のペストは漸く下火になつたが、東京の鼠の値は上つて又一匹五錢となつた、捕鼠の屆出も急に多くなつたが、此等の鼠は何うなるかと云ふと、夕方には各所の交番から區役所に集め、翌朝荷車で芝區愛宕町の警官練習所構內の細菌檢查所に運ばれ此處で以て一々細菌檢查を施される、目下平均一日五千頭の鼠が解剖され、顯微鏡でその血液の檢查をされる。それから此多數の骸は如何に化るかと云ふに、百二三十匹を一鑵に詰め金二錢五厘にて深川區小名木川の東京人造肥料合資會社へ御拂下げとなり、此處で大きな釜で釜焦りの刑に處せられ、乾燥して粉にされて俵に入れられて、遂に桑の木の肥料として賣出されると云ふ順序なさうである。

○鹽の衡賣

鹽は昔から桝賣のものであつたが、專賣鹽は必ず目方賣にするやう嚴達されたと云ふことである。それといふのは鹽に依て目方が非常に違ふ例へば瀨戶內海の十洲鹽田の鹽は一升三百二十目乃至四十目あるのに、行德鹽は一升二百五六十目が普通といふやうな次第だからであらうとのこと、衡賣價格は左の通

り。

再製鹽	百六十匁	四錢七厘以下	一錢ニ付三十五匁以上
行徳鹽一等	百六十匁	三錢九厘以下	一錢ニ付四十二匁以上
同　二等	百六十匁	三錢八厘以下	一錢ニ付四十二匁以上
同　三	百六十匁	三錢六厘以下	一錢ニ付四十五匁以上

○日本白十字會

過般施藥救療の聖詔と多大の御下賜金ありて、諸方面に慈善的の働が起つたが、玆に又日本白十字會と云ふものが出來た、これは木下、川上、林、杉等の醫師達の發起に依て成つたもので、其目的は結核病の豫防撲滅にある、その目的遂行の方法としては（一）完全なる結核豫防法令の發布を促す事（二）官公私立の結核病隔離療養所の設置を謀る事（三）結核病研究所の設置及び講演會、展覽會の開設又は書籍雜誌の出版、圖書蒐集をなす事（四）結核病の豫防及治療に務め、其他目的に適切なる事業を行ふ事等にて、差當り市內各區に救療社員十五名を置き、一日三人以內結核患者の貧困者を施療することゝし、各方面に救療劵を配布すると云ふことである。

廣告

○大日本婦人衞生會

收支決算報告書（自明治四十三年三月 至同 四十四年二月）

收入

一金五千貳百四拾七圓八拾四錢八厘

內譯

金貳千八百四拾參圓四拾錢八厘	前年度ヨリ越高
金貳千百參拾貳圓壹錢	會費
金百參拾貳圓八拾錢	寄附金懇親會費廣告料
金百參拾九圓四拾參錢	預ケ金利子
金貳拾錢	雜收入

支出

一金貳千貳百拾壹圓五拾參錢五厘

內譯

金五百參拾貳圓七拾五錢	報酬及雜給

金參圓拾八錢五厘　備品費
金九百七拾圓四拾參錢　圖書及印刷費
金貳圓六拾五錢五厘　筆紙墨文具
金四圓參拾五錢　消耗品
金百參拾壹圓拾貳錢　通信運搬費
金百參拾參圓四拾貳錢　集會費
金百參拾圓六拾貳錢五厘　雜費
金參百圓　借家料
金參圓　旅費

收支差引殘

一金參千參拾六圓參拾壹錢參厘

內譯

金貳千八百參拾五圓　三井銀行預金
金六圓八拾八錢　東京貯藏銀行京橋支店同上
金六拾圓貳拾壹錢　振替貯金
金五拾圓　借家敷金
金八拾四圓貳拾貳錢參厘　手元有高

以上

金貳圓也　田中こう子氏

右本年新年會の際寄附せらる

私立大日本婦人衛生會

○本會入會者

○山口貞子紹介
●牛込區市ヶ谷加賀町十六　通常會員　矢田部順子

○高木鐐子紹介
●神田區北神保町五　特別會員　中村やえ子

○伊澤ひさ子紹介
●府下下大崎四七六　通常會員　藤倉はな子

○宮本樂子紹介
●府下中澁谷四二五　特別會員　小林彌生子

○資格變更
●通常より終身へ　山本すゞ子

○新潟支會入會者

○中村しげ子紹介
●　通常會員　荒川うめ子

○正誤
●前月雜誌に通常會員中村たみ子とせるは特別會員中山たみ子の誤につき訂正す

○轉居

●横須賀市稻岡町官舍甲四へ　大館きみ子
●牛込區矢來町四ノ四九へ　櫻井かほる子
●神奈川縣鎌倉長谷へ　尾崎菊枝子
●赤坂區青山高樹町十一ノ北一へ　長與園子
●福岡市須崎土手町へ　岡部もと子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新案特許一〇三六二號

衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のもの＼如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

●丸髷 金十五錢より金七十五錢迄

●島田髷 金三十錢より金壹円五十錢迄

●銀杏髷 金二十錢より金六十錢迄

●送料 各八錢

●諸かもじ製造販賣

東京市神田區豐島町十七番地【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

●小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹　本郷三丁目 兼康　淺草駒形 百助　淺草駒形 紅勘　神田區須田町 三井屋　日本橋通二丁目 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助

日本橋區田所町廿一 山三商店

同 横山町一丁目 安井治太郎

同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎

同 横山町一丁目 天野源七

同 馬喰町三丁目 阿部錠

同 橋町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店

同 横山町二丁目 江川小間物店

同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

▲高峰博士發見特許製法に由る消化新藥▲强度一定効力永久不變
▲類似模造品あり「タカ」の冠字御注意▲各地有名藥舖にあり
▲日英博覽會化學品部に多數のヂアスターゼ類出品せられたるも審査の結果獨り本劑の優良なるを賞賛し特に發明者の功勞を表彰せんが爲め我高峰博士に最高賞牌たる

タカヂアスターゼ

名譽大賞を贈與せり本社は我醫界に本劑の優秀絶倫を證明せられたる此實蹟を報導し得るを大なる光榮とす。

▲說明書郵呈す

發賣元 東京市日本橋區室町三丁目 三共合資會社

大學教授博士鈴木梅太郎氏發見の特許製法に由り製造せられたる本劑は吸收性同化性の完全なる有機性燐化合物にして其効用は總ての

特許新藥 ユーキリン

營養增進に在り結核性患者、食慾不振、病後恢復期に用ゆべく殊に神經衰弱患者の營養劑として卓効あり

發賣元 東京市日本橋區室町三丁目 三共合資會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虐待兒救護

何所にでもこれあらは知らせて下さい

報知する人は氏名を要せず電話でも先拂郵便でも宜し虐待事故の所番地ご氏名さへわかれば宜し

東京出獄人保護所　原胤昭

神田區元柳原町

電話本二九六五

私立 東京女醫學校 生徒募集

◉五月一日新學年開始◉入學資格高等女學校卒業生に限る◉入學願書提出期限四月二十八日迄

◉東京牛込區市ケ谷河田町（電話番町二〇一九）

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價	
一册	定價金貳拾錢　郵稅壹錢
三册（三ヶ月分）	前金郵稅共　金四拾五錢
十二册（一ヶ年分）	前金郵稅共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行　一行二十三字

一頁　金三圓　半頁　一圓五拾錢

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行十五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

明治四十四年四月十七日印刷
明治四十四年四月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　荘司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍

發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地

賣捌所

東京本郷區龍岡町　吐鳳堂
東京市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鍋屋町　東明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店

京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市本町三丁目　丸善書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歌書刊行會校

和歌八代集

上等和紙印刷　優美製本

古今集二册　後撰集二册　拾遺集二册　後拾遺集二册　井上博士校訂 金葉集 詞花集二册　千載集二册　新古今集四册

各集分賣

完成

全拾六册　正價九圓九拾錢　小包稅貳拾四錢

歌仙家集

完成

全六册　正價參圓六拾錢　郵稅拾貳錢

本會顧問

文學博士 萩野由之君　鎌田正夫君　醫學博士 井上通泰君　伯爵 柳原義光君
子爵 相良頼紹君　下田歌子女史　子爵 渡邊千秋君　賀古鶴所君
大口鯛二君　柳田國男君　佐々木信綱君　醫學博士 森林太郎君

目下第二期事業トシテ
御歌所寄人井上通泰博士監督ノ下ニ

近藤芳樹翁遺著 萬葉集註疏
中山美石翁遺著 後撰集新抄
藤井高尚翁遺著 古今集新釋

を毎月貳册を刊行し既に十册を出したり
是皆故人が心血を濺ぎて述作せられたる**名著**なれば斯道學者の益を得ること極めて多かるべし
刊行會は其完結を誓ふ

● 刊行會趣意書規定及見本ハ往復はがきニテ申込マルレバ直ニ附郵ス

東京市本郷區龍岡町　振替東京三〇五八番

發賣所　電話下谷 四〇七九 一六七二　聚精堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN